

(6) 学校生活

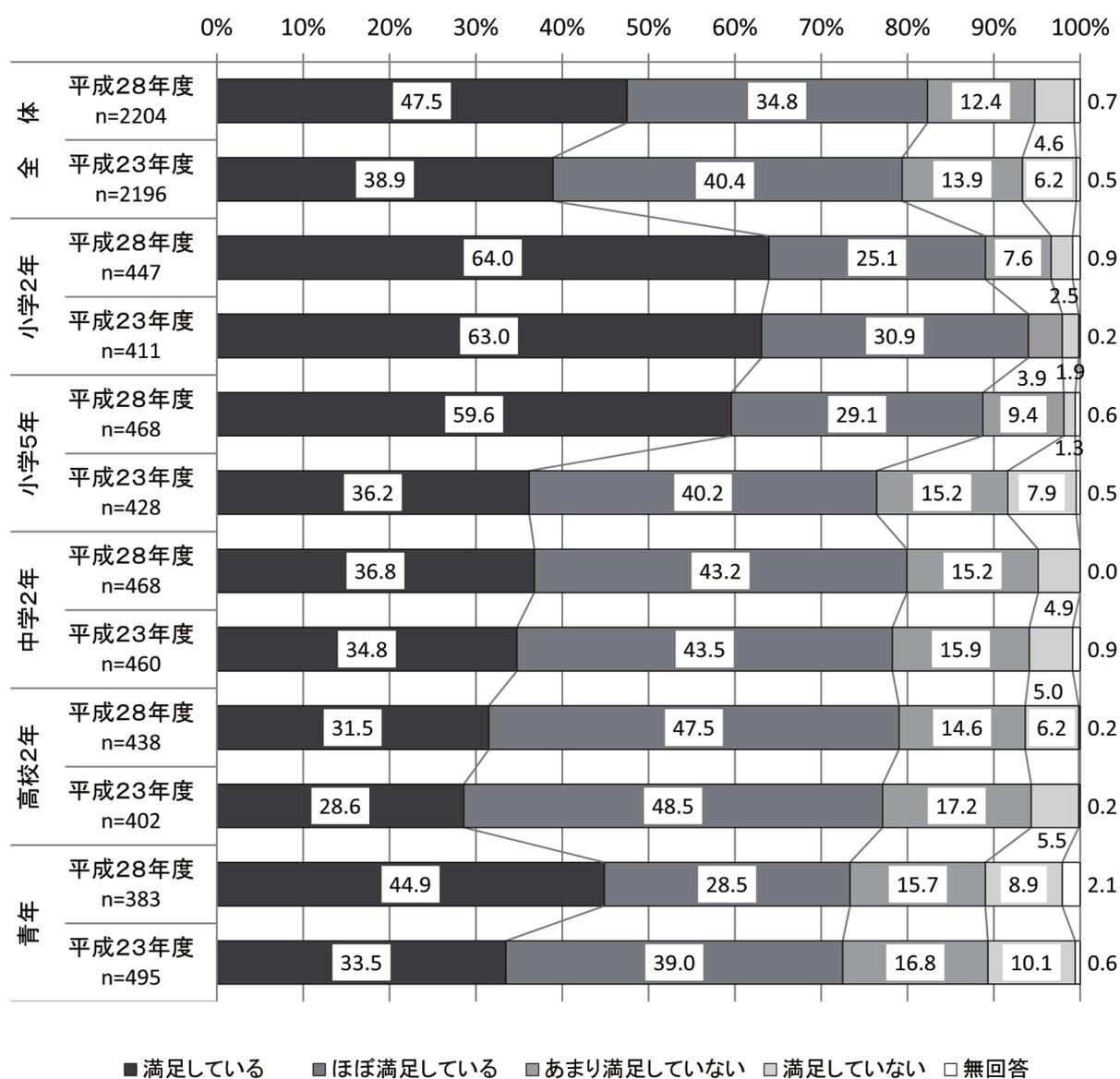
ア 学校生活の満足度

問 あなたは、学校生活に満足していますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「満足」(「満足している」と「ほぼ満足している」の合計)を選んでいる割合は、小学生の約9割、中学2年、高校2年の約8割を占めている。「満足」の割合は、年代が上がるにつれて減少している。平成23年度と比べると、全ての年代で「満足している」の割合が増加している。

学校生活の満足度

図59



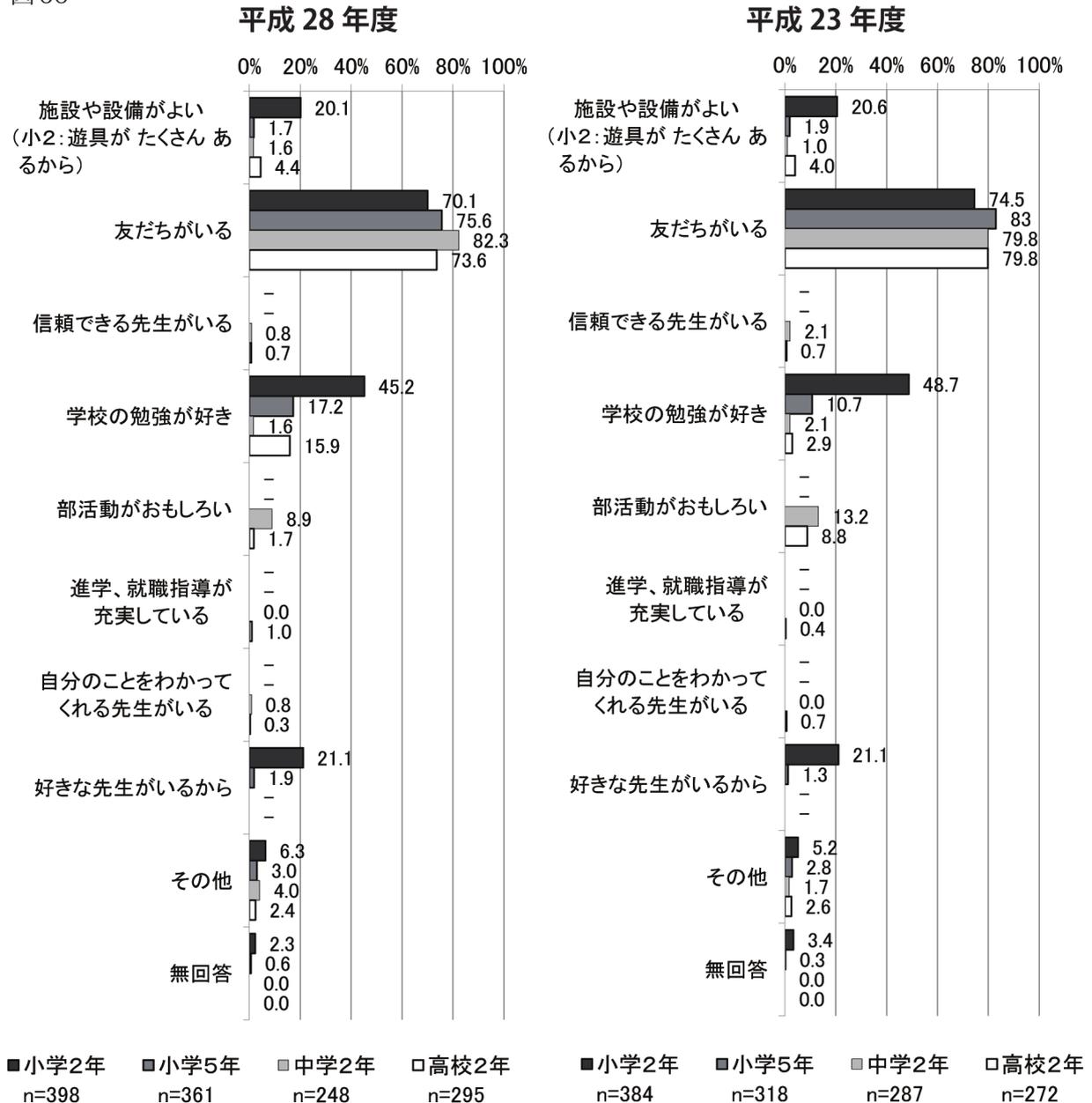
▶▶ イ 学校生活満足の理由

問 質問 36 (学校生活の満足度) で、「1 満足している」、「2 ほぼ満足している」を選んだ人に質問します。
満足している理由は何ですか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

どの年代でも一番多く回答しているのは「友だちがいる」である。
平成23年度と比較すると、小学5年と高校2年で「学校の勉強が好き」が大きく増加している。
中学2年と高校2年では「部活動がおもしろい」が減少している。

学校生活満足の理由

図60



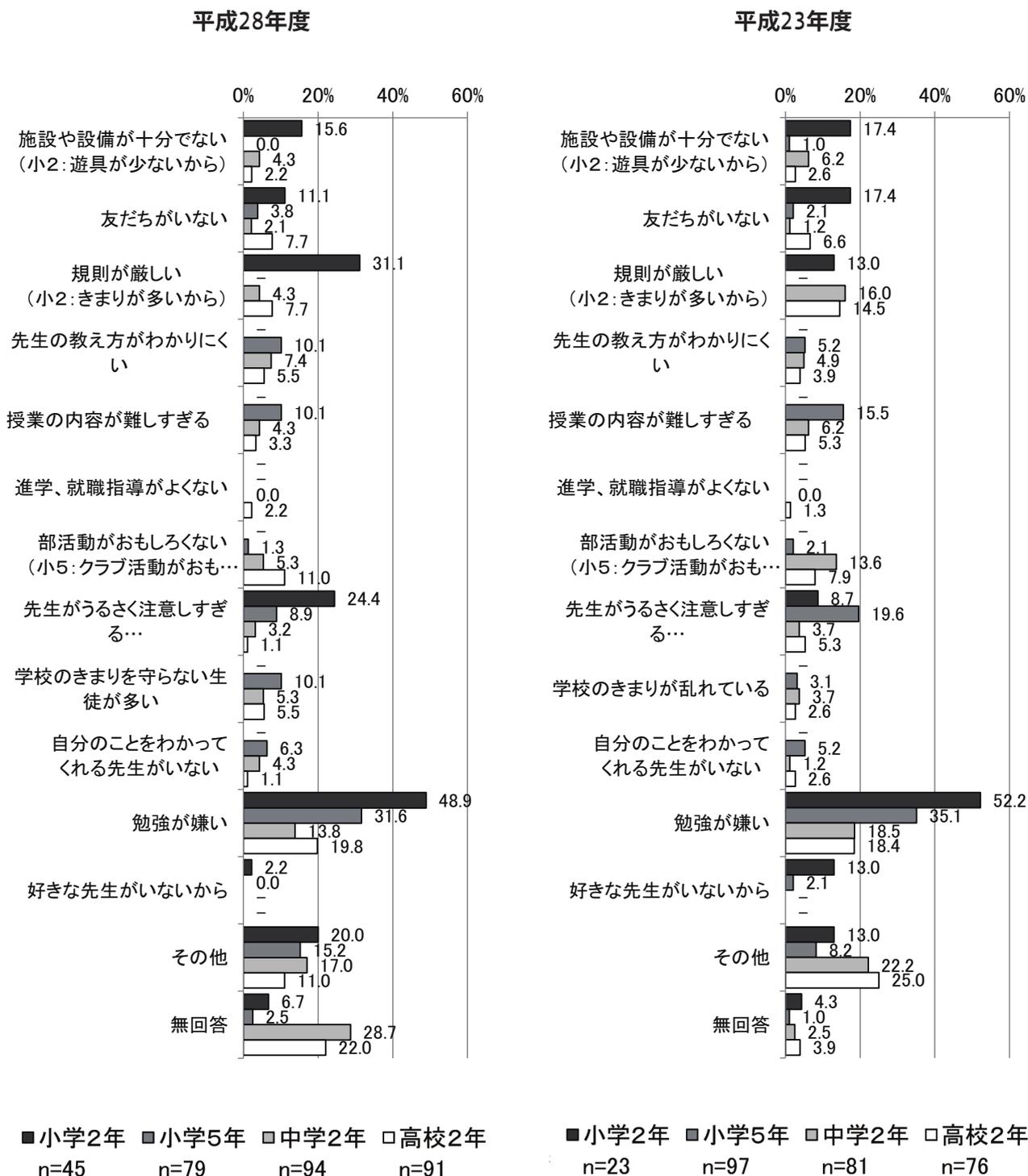
ウ 学校生活不満足の原因

問 質問 36 (学校生活の満足度) で、「3 あまり満足していない」、「4 満足していない」を選んだ人に質問します。満足していない理由は何ですか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「その他」を除くと、どの年代でも一番多く回答しているのは「勉強が嫌い」である。

学校生活不満足の原因

図61



▶▶ Ⅰ 学校へ行きたくないと思った経験

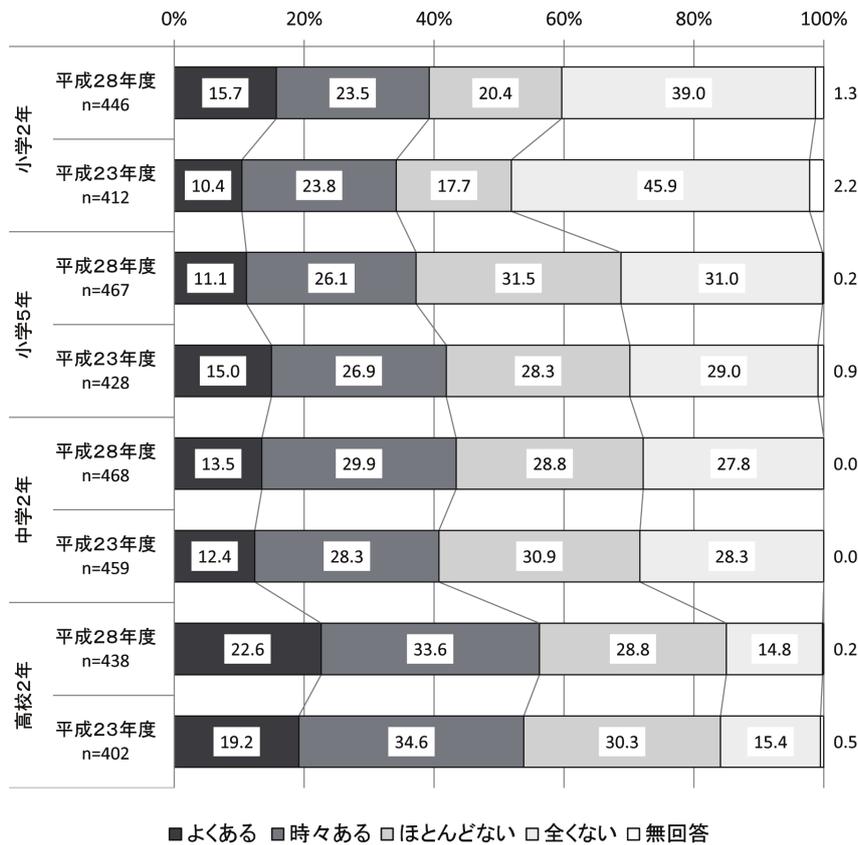
問 あなたは登校前に、「学校に行きたくない」もしくは「出かけることがすごくつらい」と思うことがありますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「ある」（「よくある」「時々ある」の合計）の割合は、小学2年、小学5年、中学2年の4割程度、高校2年の5割以上を占めている。

平成23年度の調査と比べて、小学5年以外では「ある」の割合が増加している。

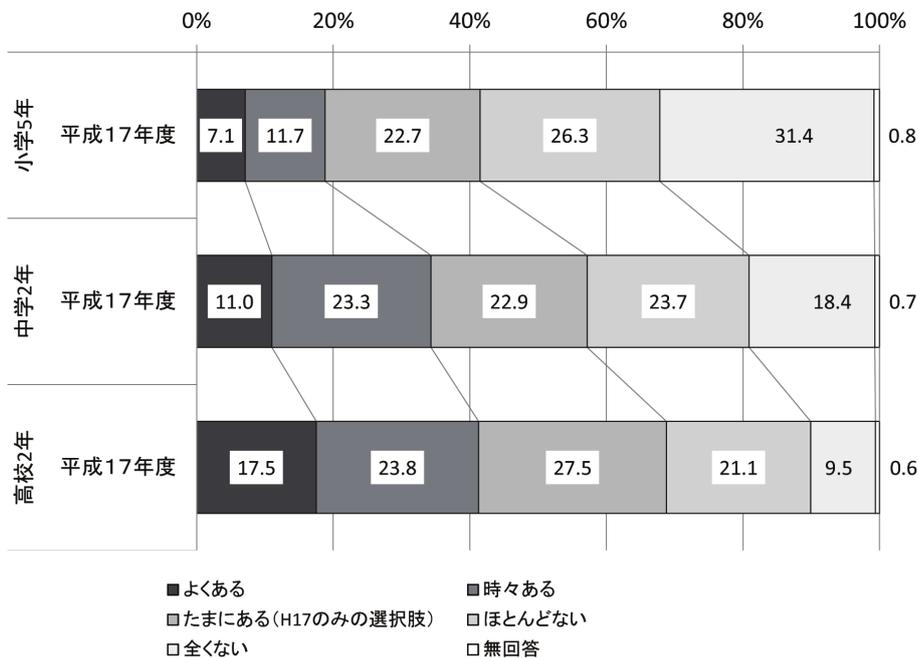
学校へ行きたくないと思った経験

図62



(参考) 平成17年度

図63



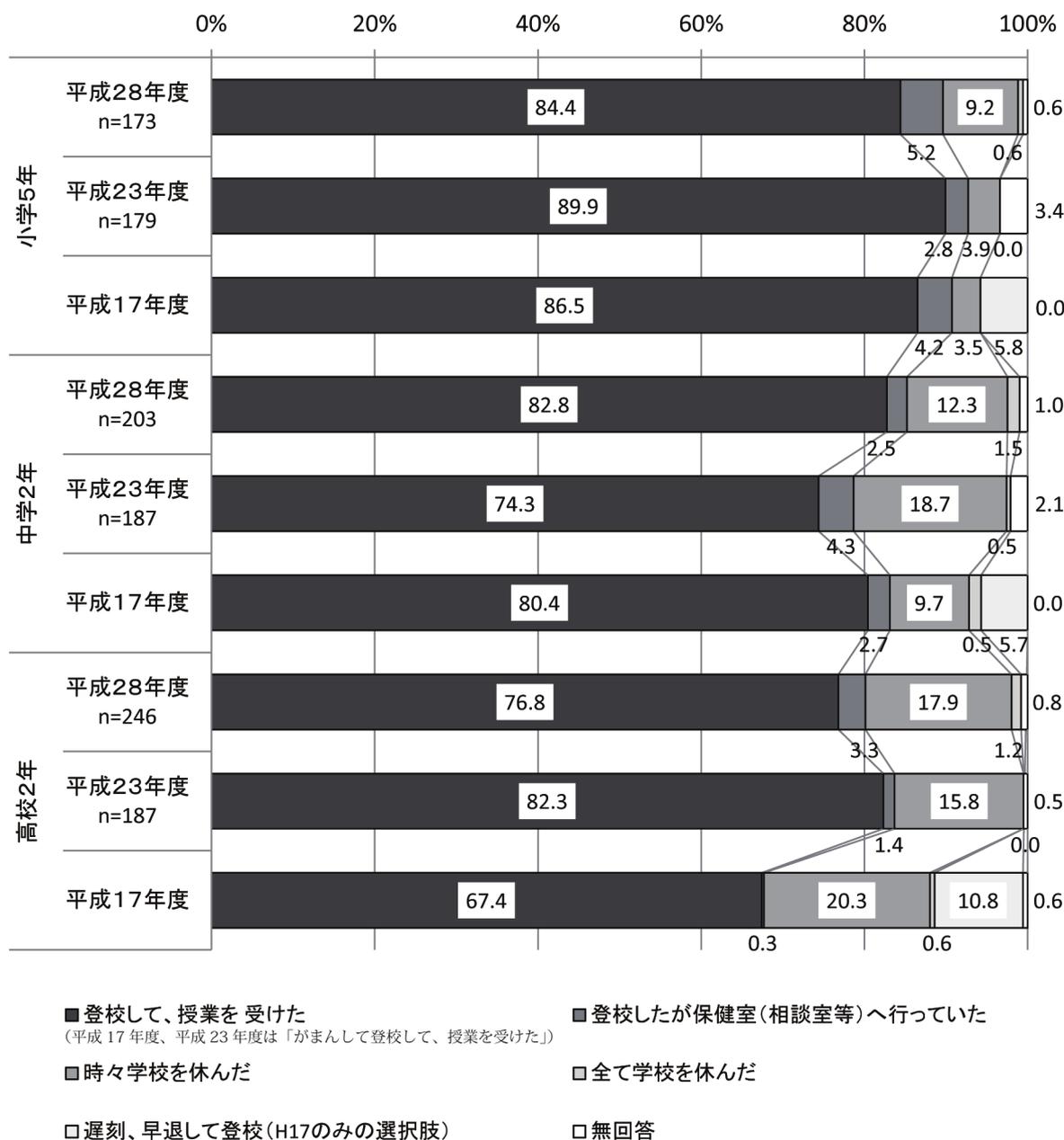
▶▶ オ 学校へ行きたくない時どうしたか

問 質問 26 (学校に行きたくないと思った経験) で、「1 よくある」、「2 ときどきある」を選んだ人に質問します。
あなたは、その時どうしましたか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

いずれの年代でも、学校に行きたくない時でも「登校して、授業を受けた」の回答が8割前後を占めている。

学校へ行きたくない時どうしたか

図64



▶▶ カ 学校へ行きたくない理由

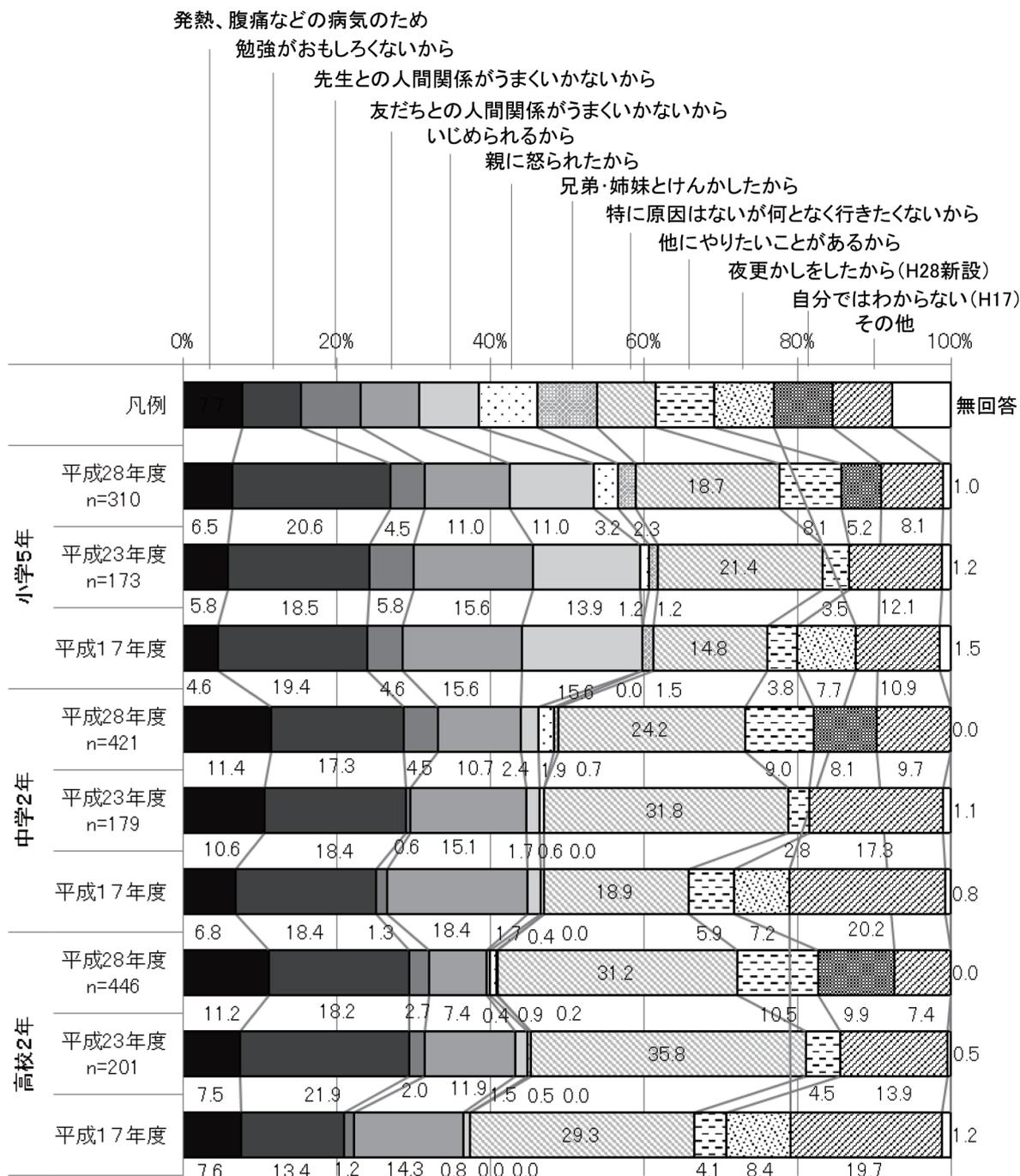
問 質問 26 (学校に行きたくないと思った経験) で、「1 よくある」、「2 ときどきある」を選んだ人に質問します。
学校に行きたくない理由は何ですか。当てはまる番号をいくつでも選んで○をつけてください。

最も多い回答は小学5年では「勉強が面白くないから」、中学2年と高校2年では「特に原因はないが何となく行きたくないから」であった。

平成23年度と比較すると、「特に原因はないが何となく行きたくないから」の割合はいずれの年代でも減少している。

学校へ行きたくない理由

図65



夜更かしをしたから (平成28年度新設)

キ いじめの経験 (1)

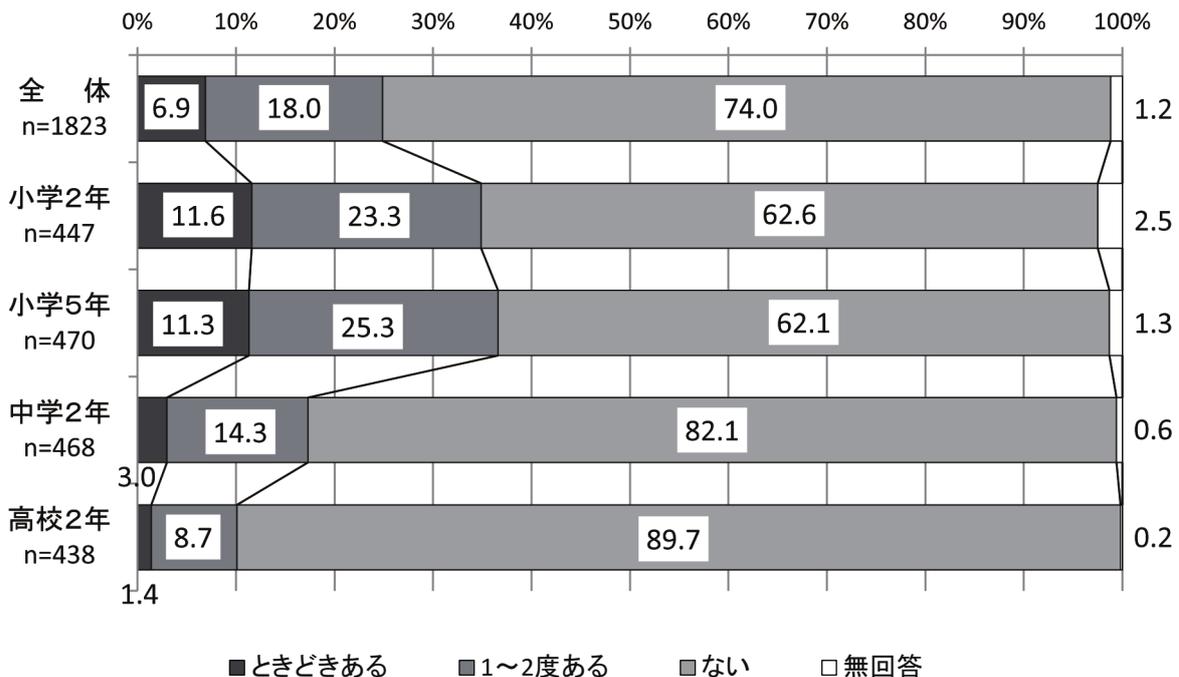
問 あなたは、最近1年ぐらゐの間に「友だちをいじめたこと」がありますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「ある」（「ときどきある」と「1～2度ある」の合計）は、小学2年、小学5年では3割を超えており、中学2年では2割弱、高校2年では約1割であった。

※平成23年度とは選択肢が異なるため、単純比較はできない。

友だちをいじめたことがある

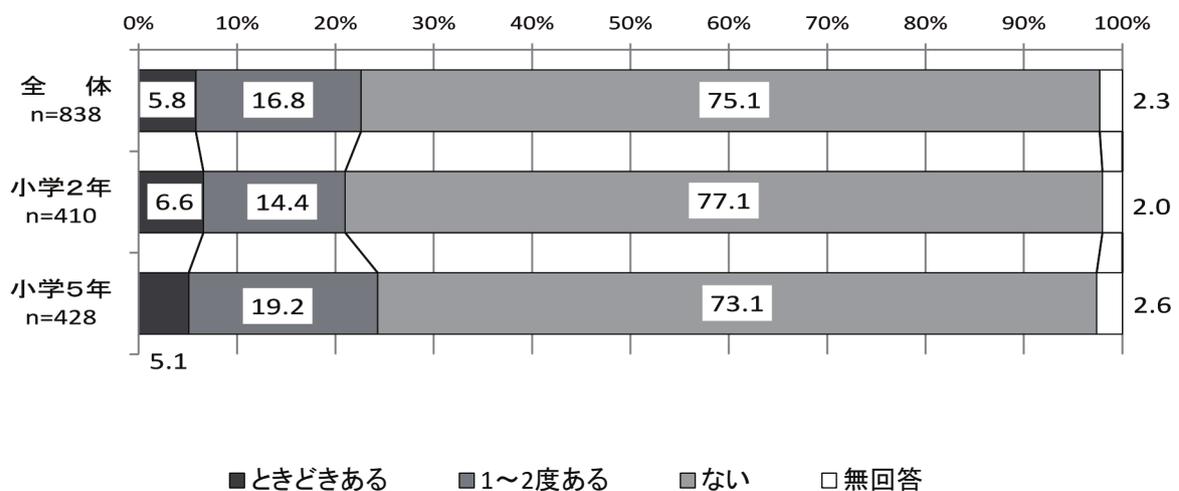
図66



(参考)

あなたは今までに大勢で一人の友だちをいじめたことがありますか (平成23年度)

図67



キ いじめの経験 (2)

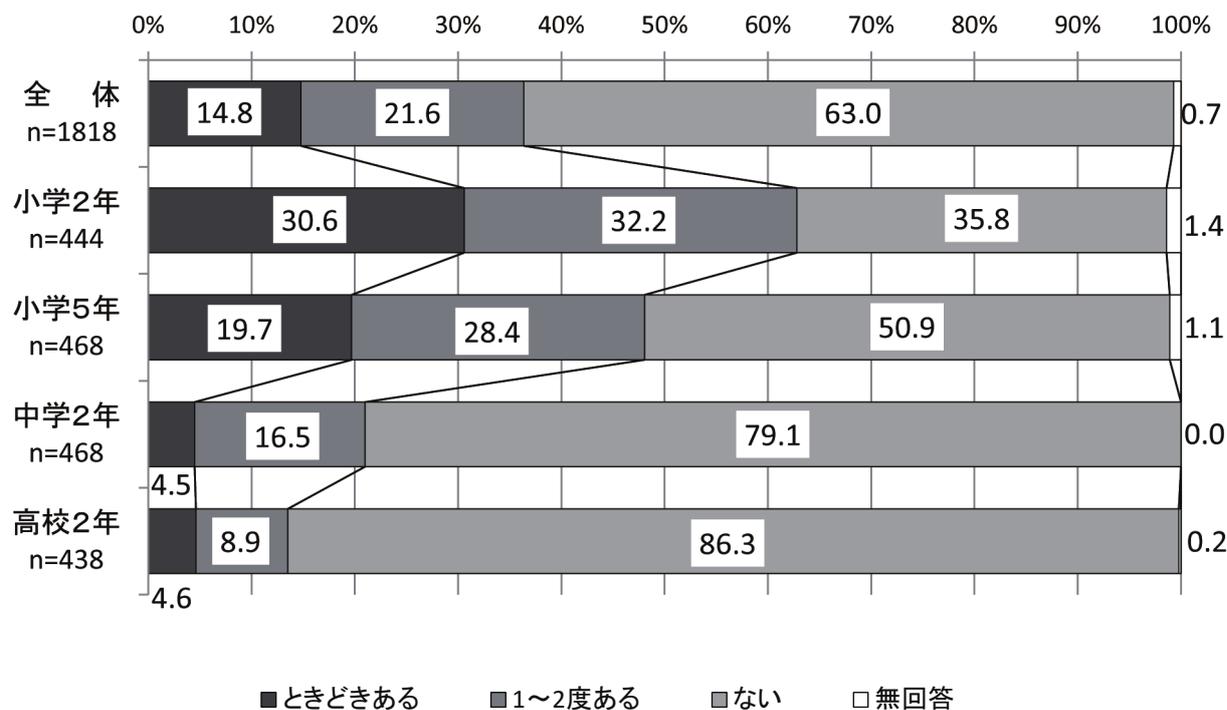
問 あなたは、最近1年ぐらいの間に「いじめられたこと」がありますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「ある」（「ときどきある」「1～2度ある」の合計）は、小学2年の約63%、小学5年の約48%、中学2年の21%、高校2年の約14%であった。

※平成23年度とは選択肢が異なるため、単純比較はできない。

いじめられたことがある

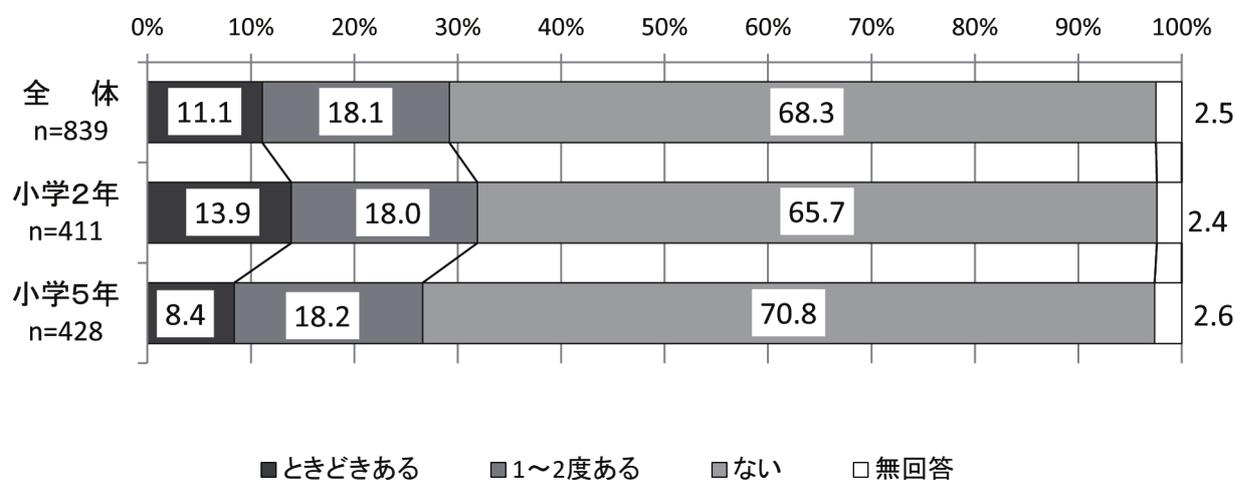
図68



(参考)

あなたは今までに、大勢にいじめられたことがありますか (平成23年度)

図69



(7) 進路・職業観

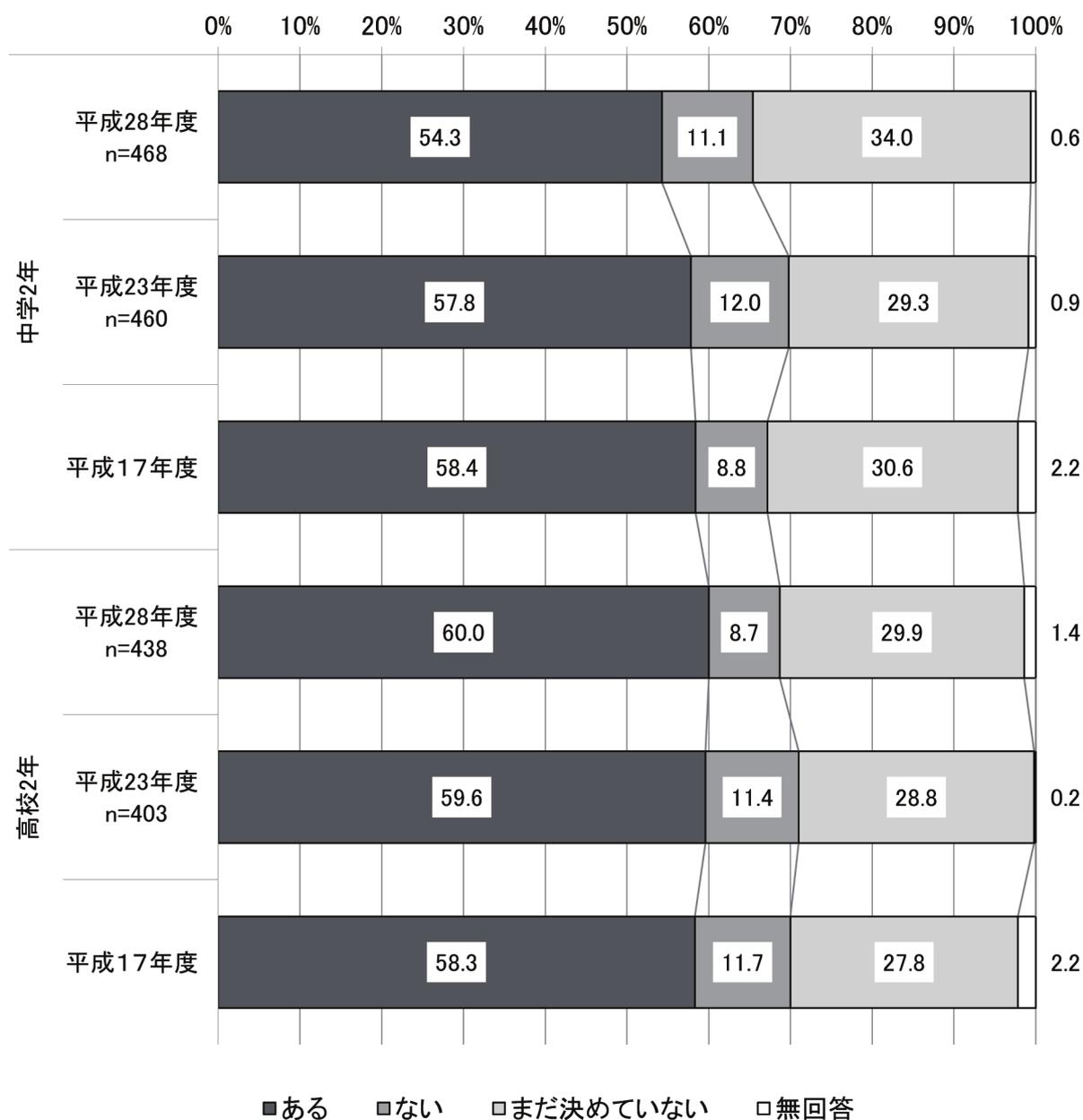
ア 将来就きたい仕事を決めているか

問 あなたは、今、なりたい職業・やりたい仕事がありますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

各年代の5～6割が「ある」と回答している。平成17年度から平成28年度にかけて、この傾向に大きな変化はなかった。

将来就きたい仕事を決めているか

図70



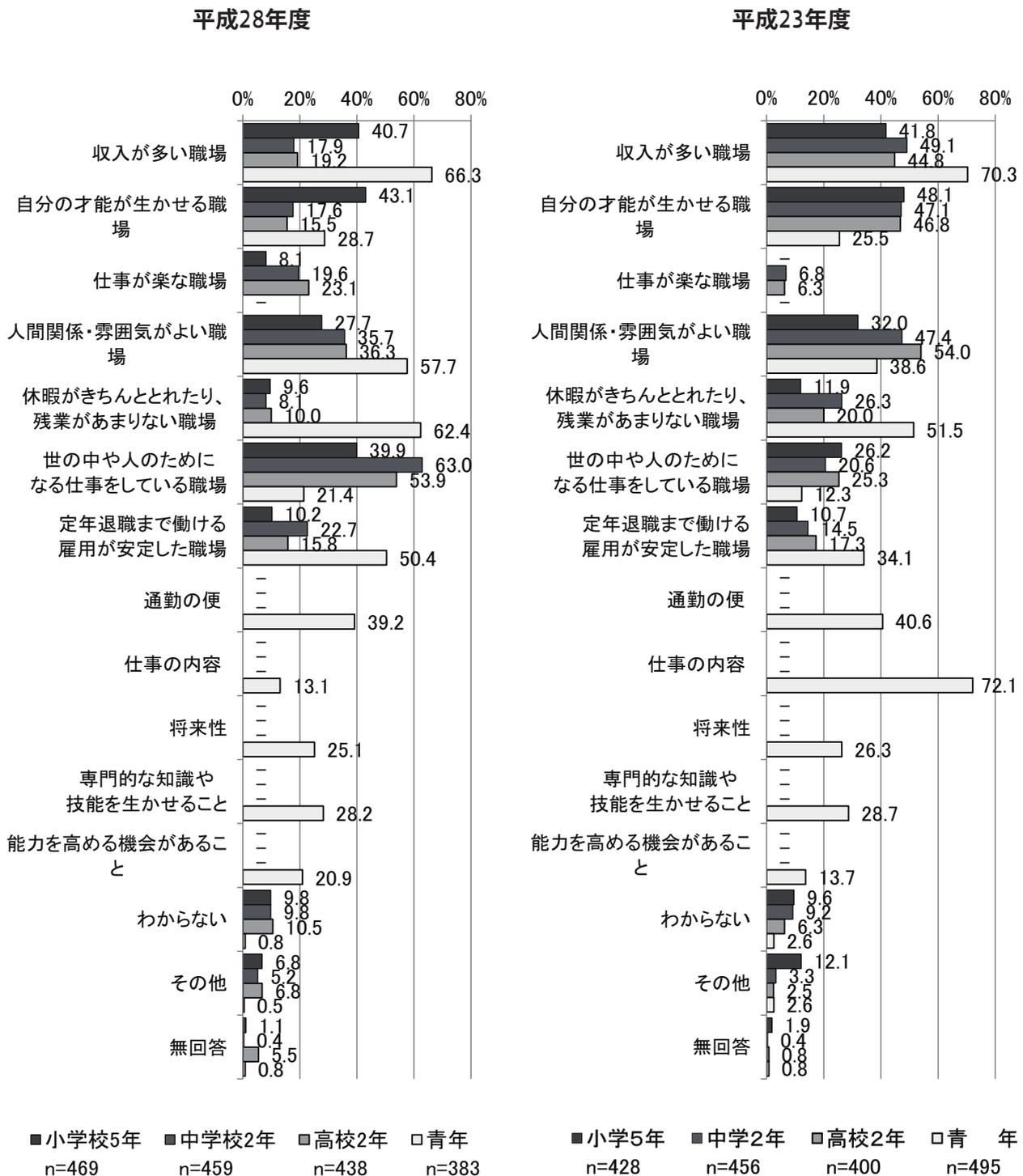
イ 職業選択の規準

問 あなたは、将来どのような職場で働きたいと思いますか。当てはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

平成23年度と比べて、全ての年代で大幅に増加しているのは「世の中や人のためになる仕事をしている職場」である。中学2年、高校2年では「収入が多い職場」が大きく減少している。青年で増加幅が大きいのは、「人間関係・雰囲気が良い職場」「休暇がきちんととれたり、残業があまりない職場」「定年退職まで働ける雇用が安定した職場」であり、減少幅が大きいのは「仕事の内容」であった。

職業選択の規準

図71



ウ 希望する最終学歴

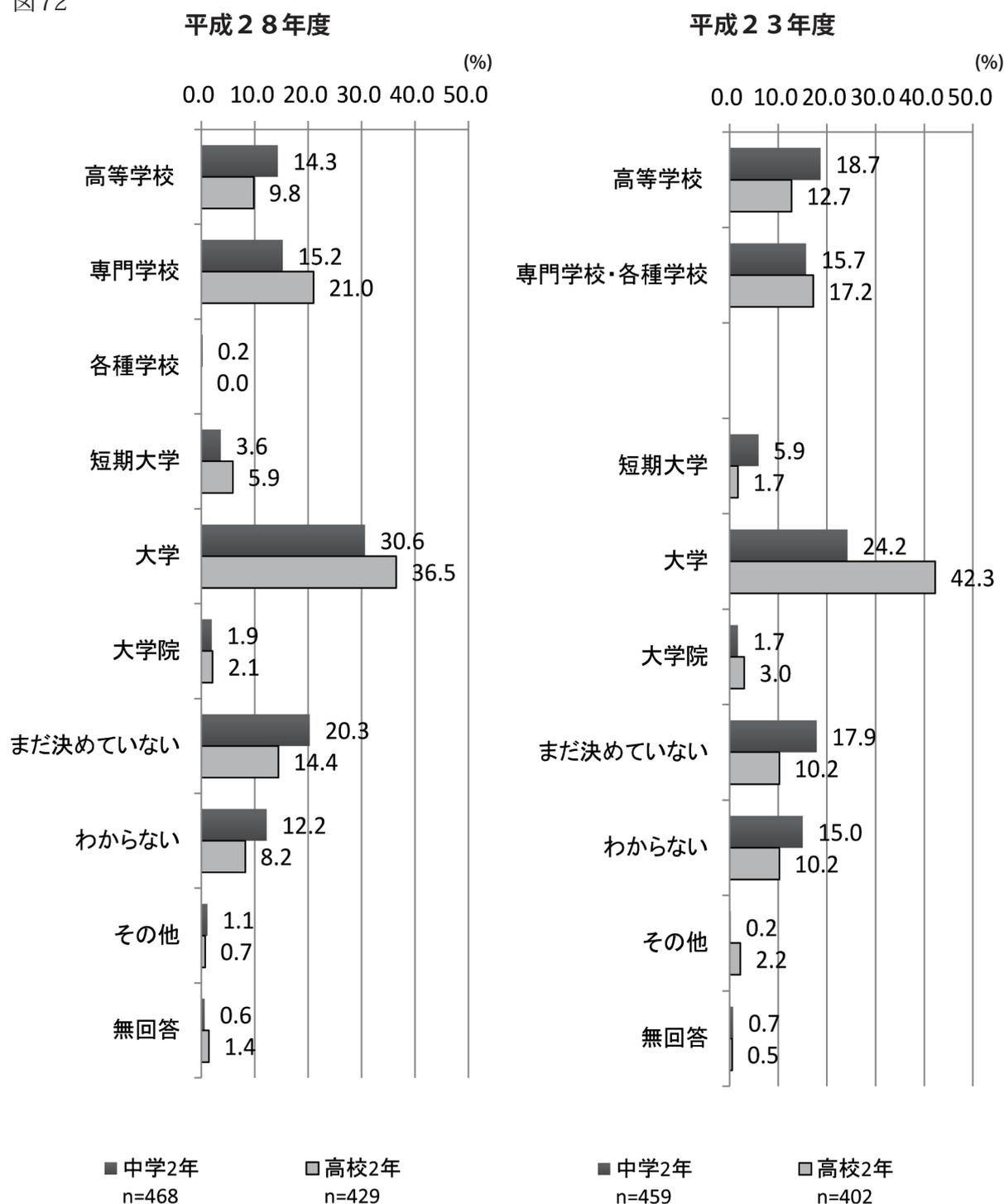
問 あなたの進学最終目標はどこまでですか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

どの年代でも、「大学」の回答が多く、3～4割を占めた。次に「専門学校」「高等学校」と続いている。

平成23年度と比べて中学2年と高校2年のどちらの年代でも減少しているのは「高等学校」で、増加しているのは「まだ決めていない」だった。「大学」の回答は中学2年で増加し、高校2年で減少している。

希望する最終学歴

図72



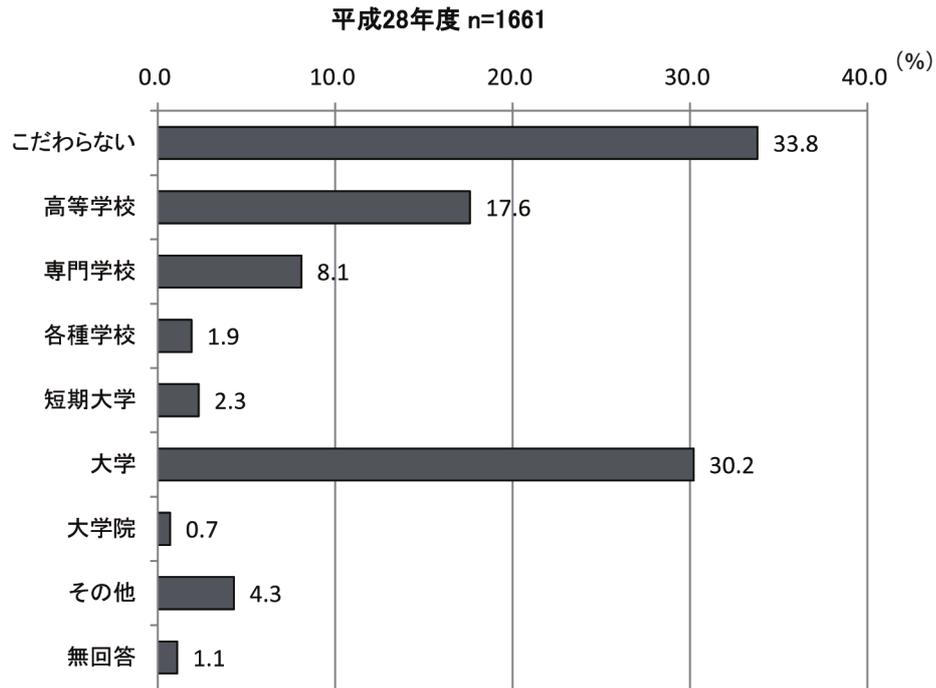
▶▶ エ 子どもの最終学歴に関する保護者の意向

問 あなたは、お子さんの進学について、どう考えていますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

「こだわらない」と回答した保護者が最も多く、次いで「大学」、「高等学校」と続いている。選択肢が違うため単純比較はできないが、平成23年度と比べ、「こだわらない」が増加している。

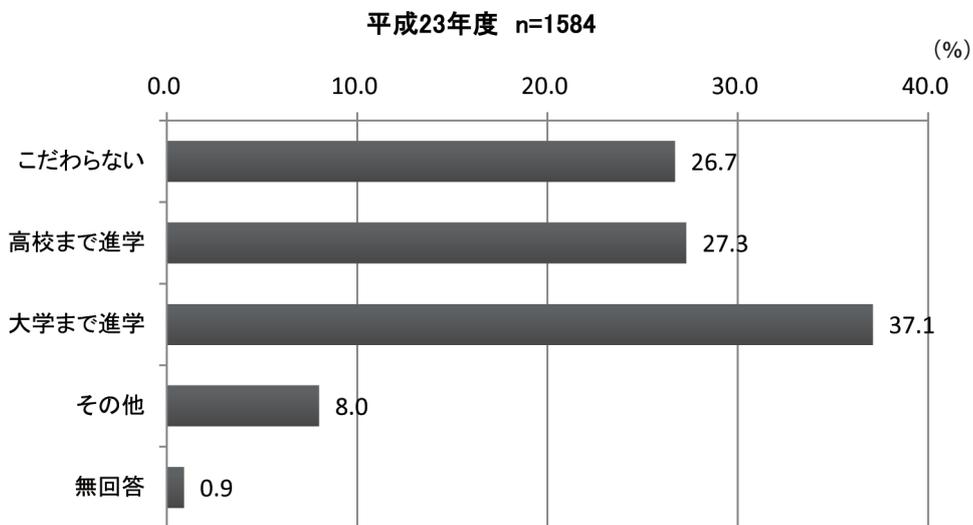
子どもの最終学歴に関する保護者の意向

図73



(参考)

図74



▶▶ オ 青年の働くことについての考え方

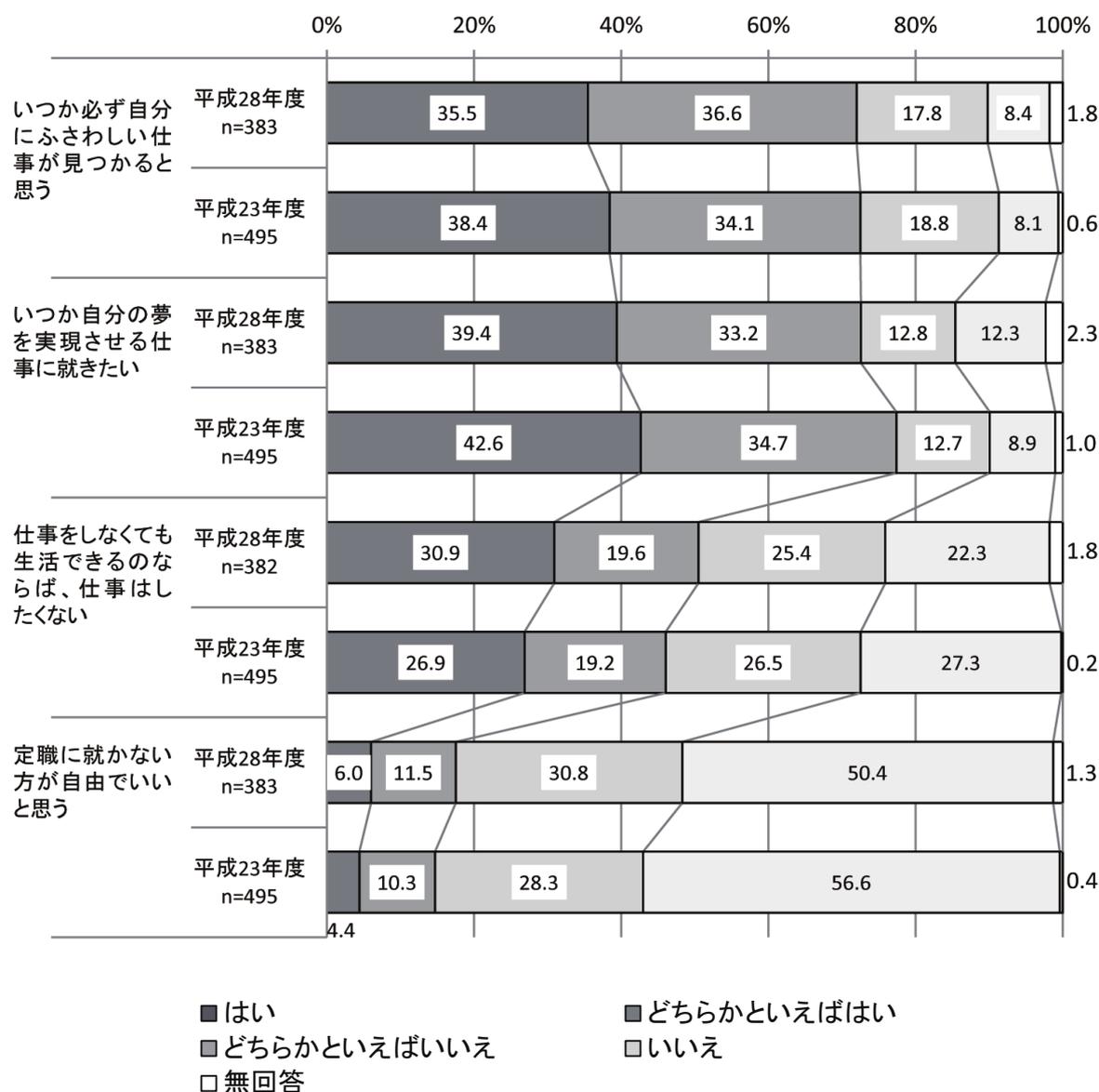
問 次の項目について、あなた自身にあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。
(○は各項目につきひとつ)

項目別に見ていくと、「はい」と「どちらかといえばはい」を合わせると一番多い項目は、「いつか自分の夢を実現させる仕事に就きたい」で約73%である。二番目に多い項目は「いつか必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思う」で約72%である。反対に「はい」と「どちらかといえばはい」を合わせて一番少なかった項目は、「定職に就かない方が自由でいいと思う」(約18%)である。

平成23年度と比べ、「いつか自分の夢を実現させる仕事に就きたい」「いつか必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思う」に「はい」「どちらかといえばはい」とした割合は減少した一方、「仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない」「定職に就かない方が自由でいいと思う」に「はい」「どちらかといえばはい」とした割合は増加している。

青年の働くことについての考え方

図75



(8) 心の状態

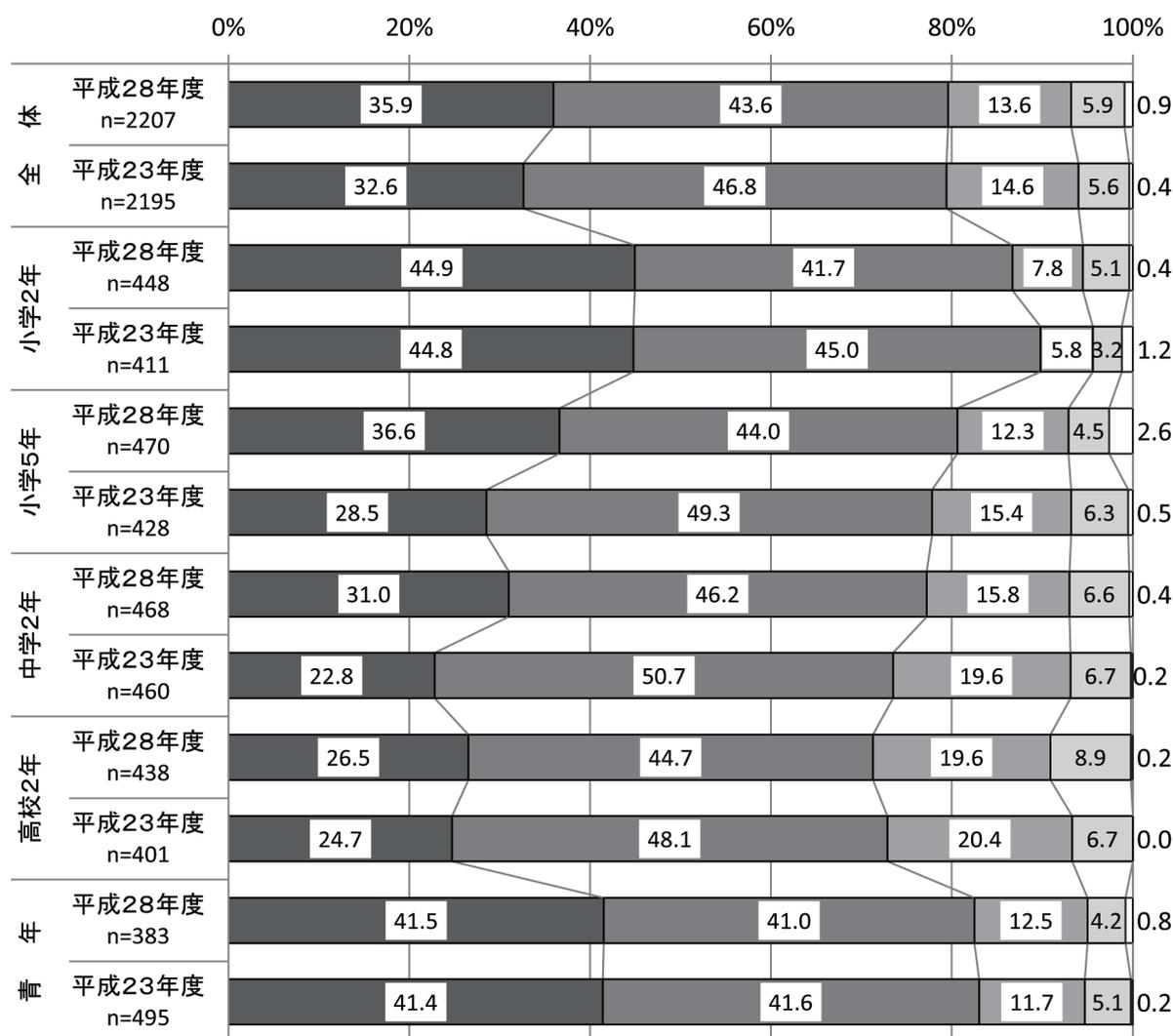
▶▶ ア 自己肯定感 (自分には良いところがあると思う)

問 あなたは、自分には良いところがあると思いますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

どの年代でも「ある」と「どちらかといえばある」を合わせると7割以上である。年代別に見ていくと、「ある」と「どちらかといえばある」を合わせて一番多かったのは小学2年(約87%)であり、次に青年(約83%)、小学5年(約81%)と続いている。一番少なかったのは高校2年(約71%)である。平成23年度と比較すると、小学5年と中学2年では「ある」の割合が1割近く増加している。

自己肯定感 (自分には良いところがあると思う)

図76



- ある(はい)
- どちらかといえば、ある(どちらかといえばはい)
- どちらかといえば、ない(どちらかといえばいい)
- ない(いいえ)
- 無回答

※ () は青年の選択肢

▶▶ エ 抑うつ感（死にたいと思ったことがある）

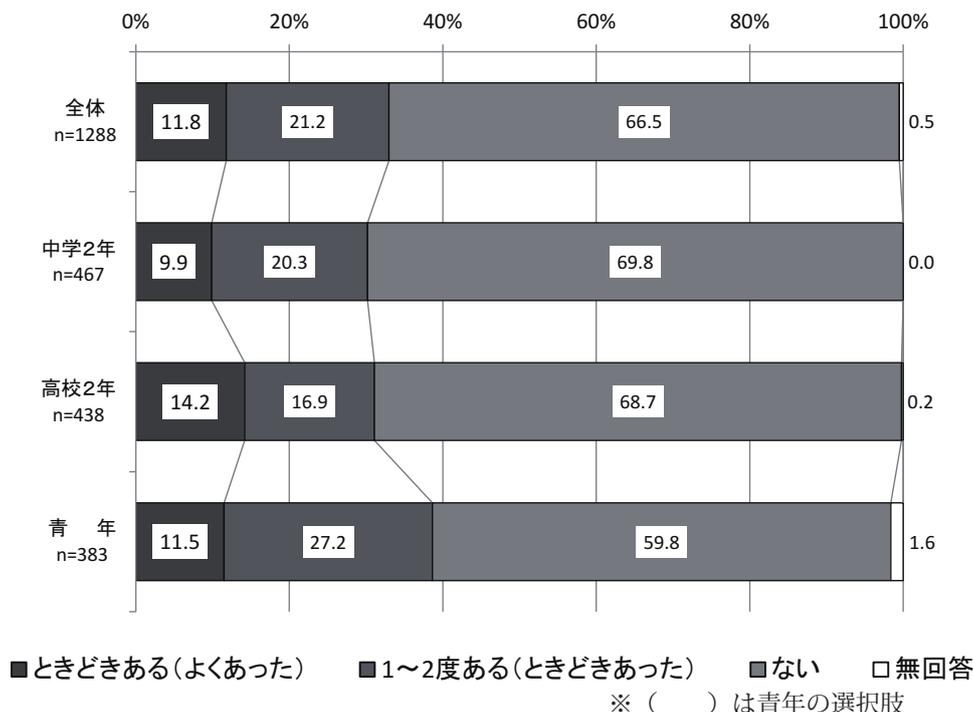
問 あなたは、最近1年ぐらゐの間に「死にたいと思った」ことがありますか。当てはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。
 (青年は「18歳(高校卒業)までにあるか」)

中学2年の約1割、高校2年の約1.5割、青年の約1割が「ときどきある」(青年は「よくあった」)と回答している。「ない」と回答しているのは、中学2年、高校2年の約7割、青年は約6割であった。

※平成23年度とは設問が異なるため、単純比較はできない。

抑うつ感（死にたいと思ったことがある）

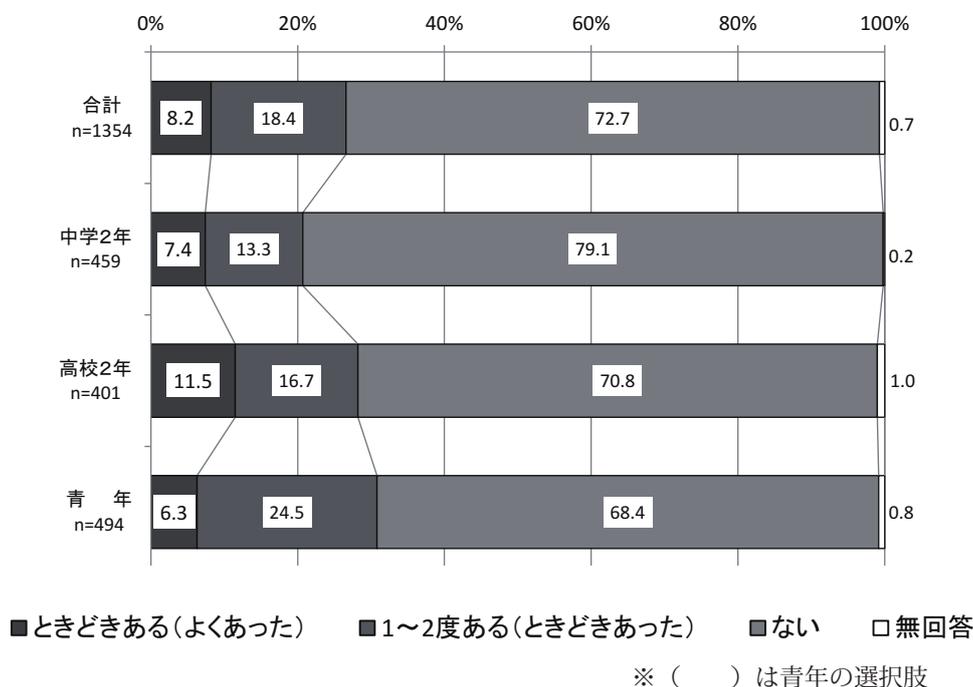
図79



(参考)

抑うつ感「死のうと思ったことがある」(平成23年度)

図80



▶▶ オ 悩みの有無

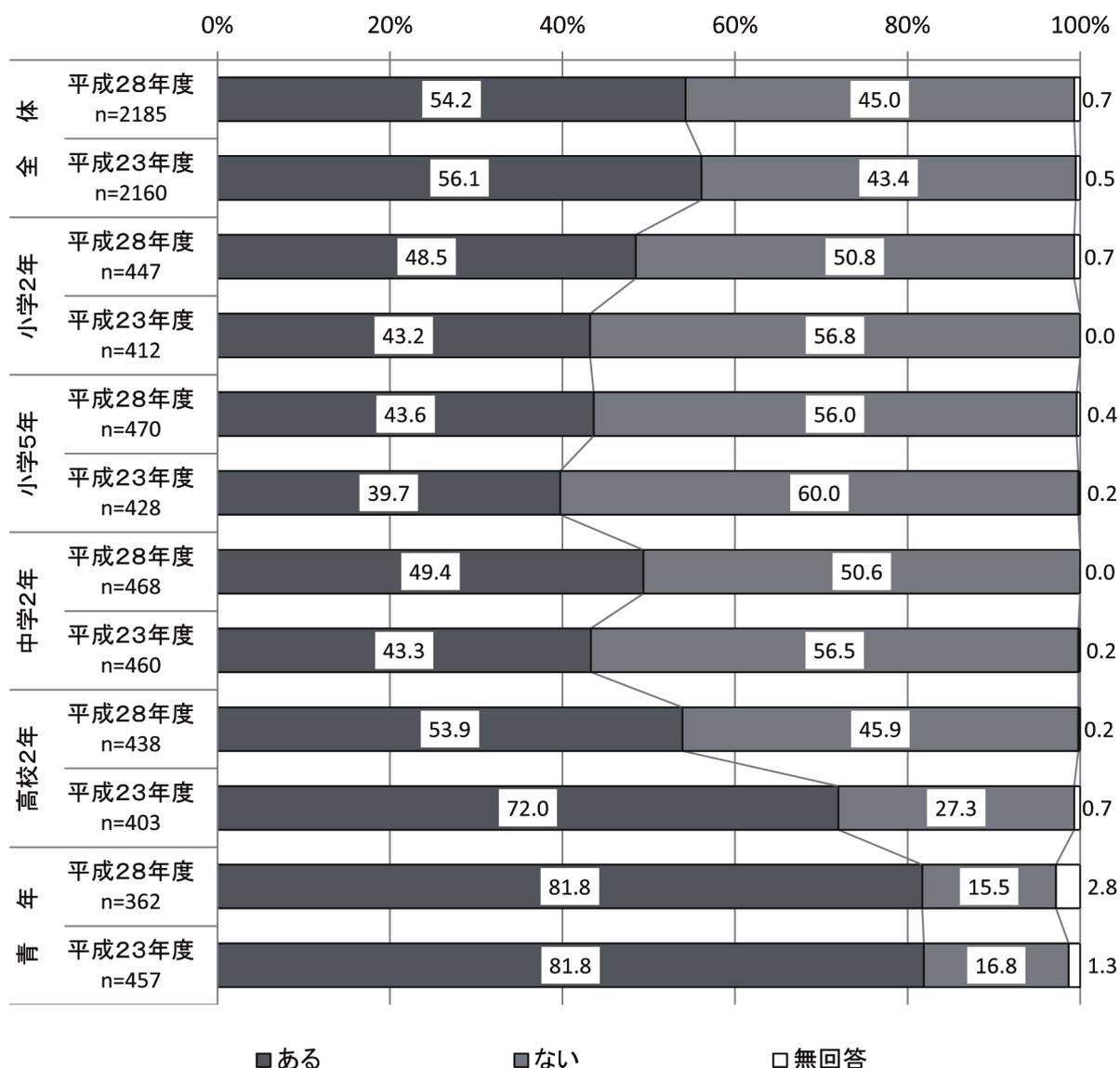
問 あなたは、悩みや心配なことがありますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

年代別に見ていくと、「ある」と回答した割合の多かった順は青年、高校2年、中学2年、小学2年、小学5年であった。

平成23年度と比較すると、高校2年で「ある」と回答した割合が2割近く減少している一方で、小学2年、小学5年、中学2年では5%前後増加している。

悩みの有無

図81



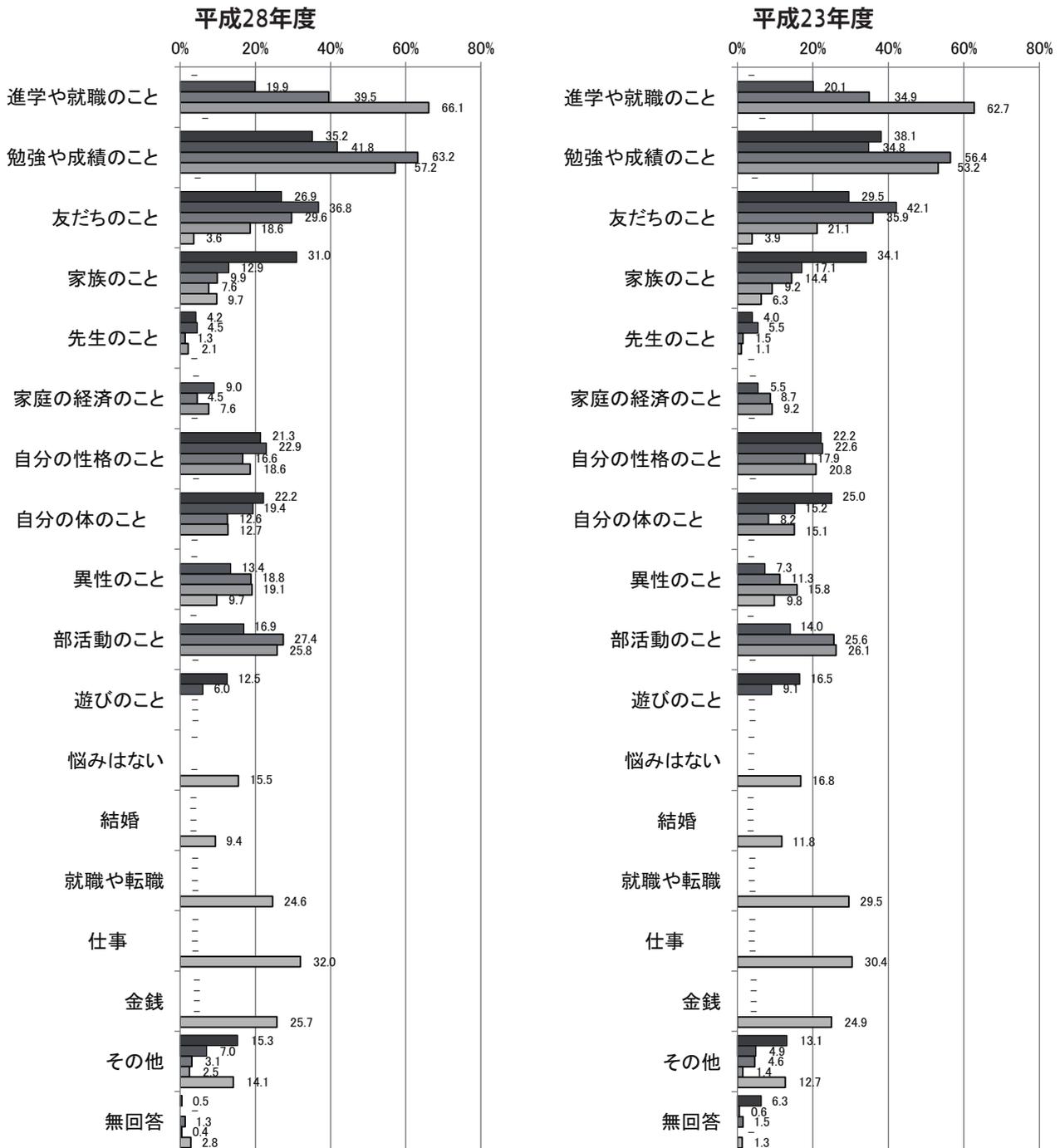
▶▶▶ 力 悩みの内容

問 質問 7 (悩みの有無) で、「1 ある」を選んだ人に質問します。それはどんなことについてですか。当てはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

年代が上がるにつれ、「進学や就職のこと」や「勉強や成績のこと」をあげる割合が増加している一方、「友だちのこと」や「家族のこと」の割合が減少している。平成 23 年度と平成 28 年度の結果を比較して、大きな変化は見られない。

悩みの内容

図 82



■小学2年 n=216 ■小学5年 n=201 ■中学2年 n=223 ■小学2年 n=176 ■小学5年 n=164 ■中学2年 n=195
 □高校2年 n=236 □青年 n=362 □高校2年 n=284 □青年 n=457

キ 悩みの相談相手

問 あなたは、悩みや心配なことを、だれに相談していますか。当てはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

年代別に一番回答が多かった項目を見ていくと、小学2年、小学5年、青年では「母」であり、中学2年、高校2年では「友だち」である。

悩みの相談相手

表3

(単位:%)

選択肢	父	母	兄弟、姉妹	祖父、祖母	おじ、おば	担任の先生 (小2:先生)	保健室の先生	その他の先生 (教育相談、部活動などの先生)	先輩	友だち
小学2年 n=445	39.1	71.9	21.1	12.8	3.1	21.3	-	-	-	25.6
小学5年 n=464	23.9	59.3	11.9	10.1	1.3	12.5	1.3	0.4	2.2	28.7
中学2年 n=465	13.3	43.4	9.0	3.9	2.4	6.0	1.7	3.2	9.2	54.4
高校2年 n=438	12.1	39.0	9.1	1.8	0.5	3.4	3.0	1.8	11.9	59.6
青年 n=362	8.6	46.4	14.6	1.9	0.6	4.1	-	-	3.0	45.6

区分	医師・看護師など医療関係者	役所の相談機関	その他の相談機関	電話相談	相談相手がいない	誰かに相談しようとは思わない	恋人・配偶者	職場の上司	職場の同僚	その他	無回答
小学2年 n=445	-	-	-	-	-	8.5	-	-	-	8.5	1.8
小学5年 n=464	0.2	-	-	0.0	4.5	13.6	-	-	-	5.0	6.9
中学2年 n=465	0.0	0.0	0	0.6	4.3	23.2	-	-	-	3.7	1.9
高校2年 n=438	0.2	0.0	0.0	0.2	5.9	22.1	-	-	-	2.3	3.0
青年 n=362	2.5	1.1	-	-	3.3	12.2	26.0	6.9	14.9	0.3	2.8

▶▶ ク 青年の対人関係に関する意識

問 下記について、あなた自身にあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。(○は各項目につきひとつ)

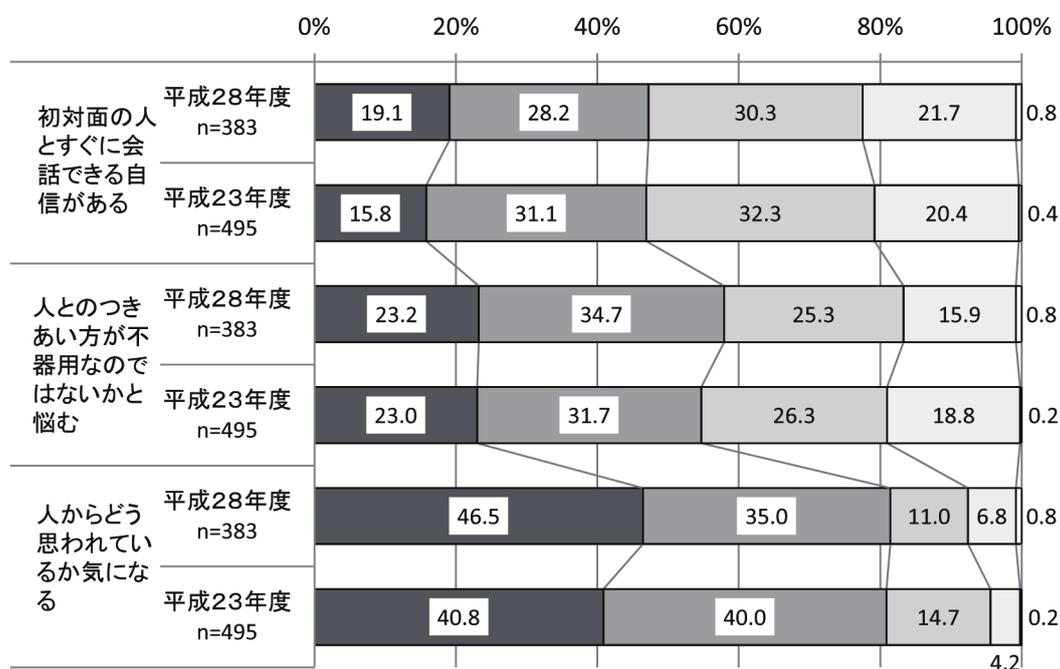
「初対面の人とすぐに会話できる自信がある」については、「はい」と「どちらかといえばはい」を合わせても、5割以下である。

「人との付き合い方が不器用なのではないかと悩む」については、「はい」と「どちらかといえばはい」を合わせると、5割以上である。

「人からどう思われているか気になる」については、5割弱が「はい」と答えており、「はい」「どちらかといえばはい」を合わせると8割以上である。

青年の対人関係に関する意識

図83



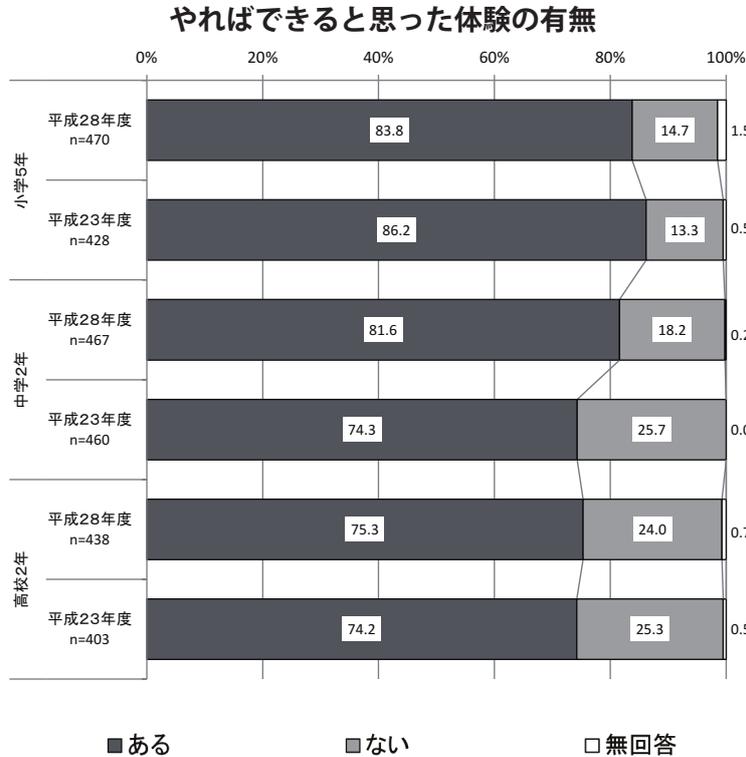
■はい □どちらかといえばはい □どちらかといえばいいえ □いいえ □無回答

ケ やればできると思った体験の有無

問 あなたは「自分もやればできるんだ」と思えるような体験をしたことがありますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「ある」と答えた割合は各年代とも高く、最も低い高校2年でも75%以上が「ある」としている。

図84



(参考) 平成17年度

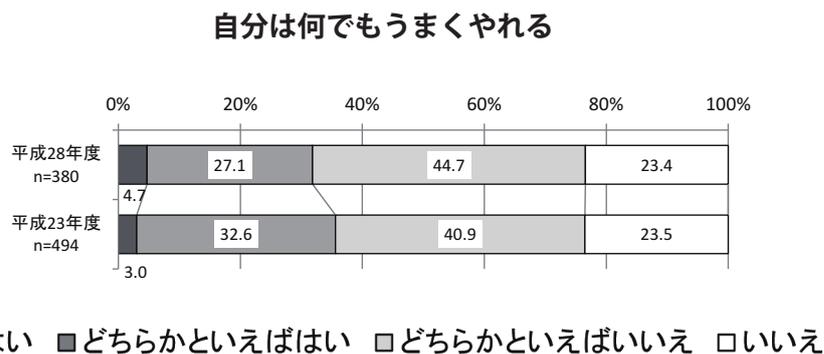
図85



■ある(H17は「強くそう思う体験がある」と「少しはそう思える体験がある」の合計) ■ない □無回答

(青年)

図86



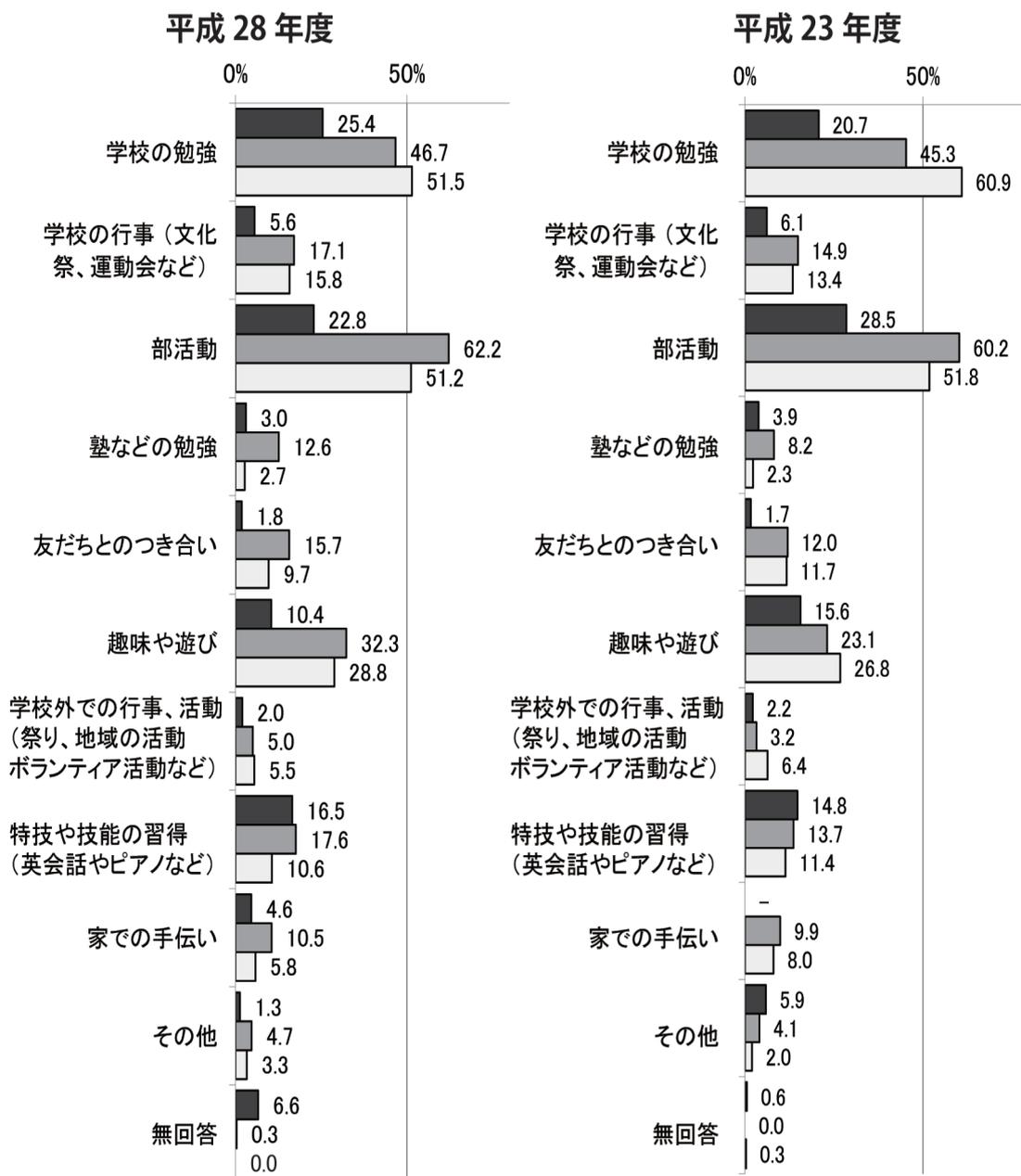
▶▶ コ やればできると思った体験の内容

問 質問 19 (やればできると思った体験の有無) で、「1 ある」を選んだ人に質問します。どんなことで「自分もやればできるんだ」と思いましたか。当てはまる番号をすべて選んで○をつけてください。(小学5年のみ、単一回答。)

回答の多い選択肢は「部活動」「学校の勉強」「趣味や遊び」であった。平成23年度と比較するとこの傾向に大きな変化はなかった。

やればできると思った体験の内容

図87



■小学5年n=394 ■中学2年n=381 □高校2年n=330 ■小学5年n=358 ■中学2年n=342 □高校2年n=299

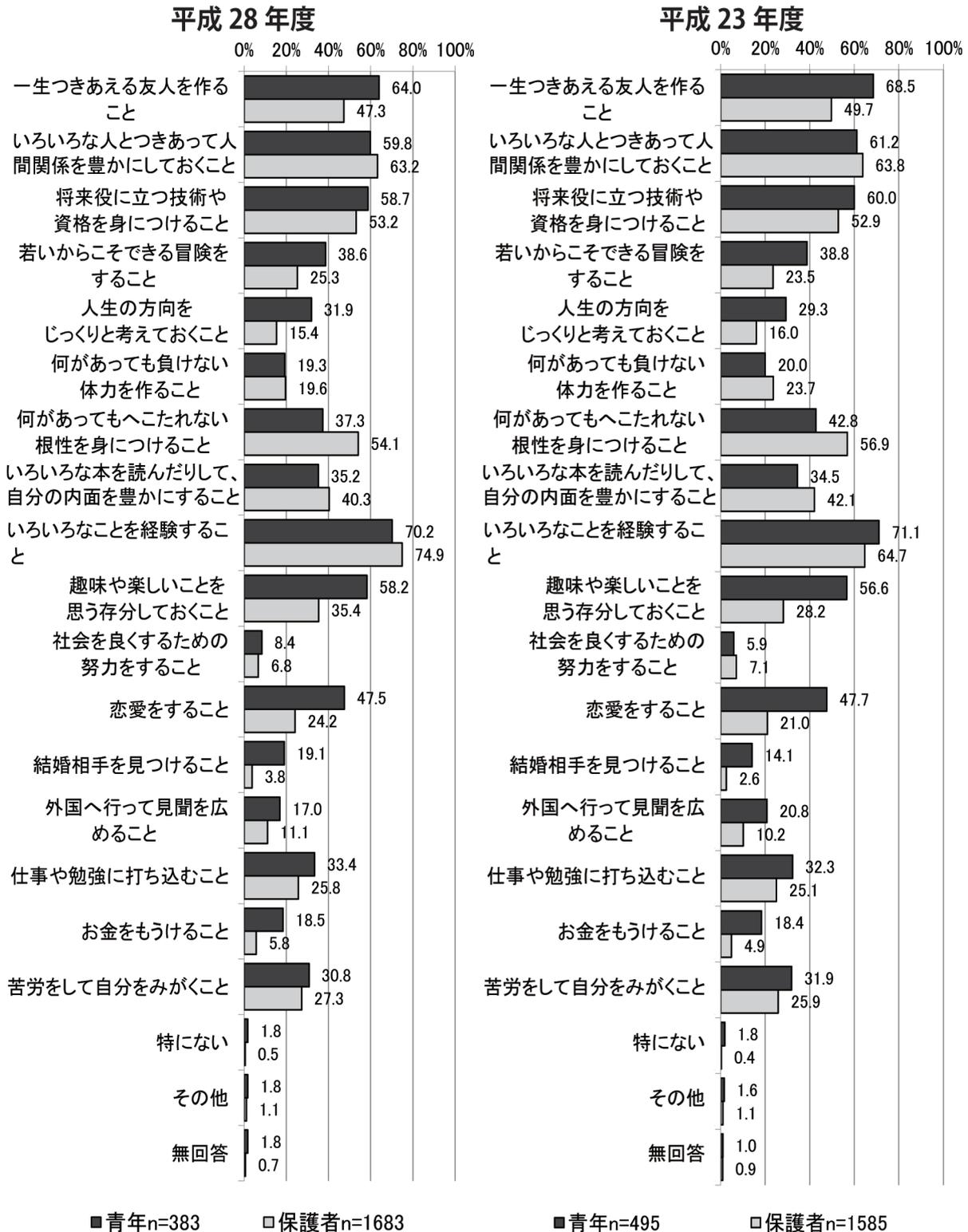
▶▶ サ 青年と保護者が考える若いうちにすべきこと

問 あなたが、「これだけは若いうちに是非やっておくべきだ」と考えていることを次の中からいくつでも選んで○をつけてください。

青年と保護者が共通して「若いうちにすべき」と回答した項目は「いろいろなことを経験すること」「一生つきあえる友人を作ること」「いろいろな人とつきあって人間関係を豊かにしておくこと」「将来役に立つ技術や資格を身につけること」等であった。

青年と保護者が考える若いうちにすべきこと

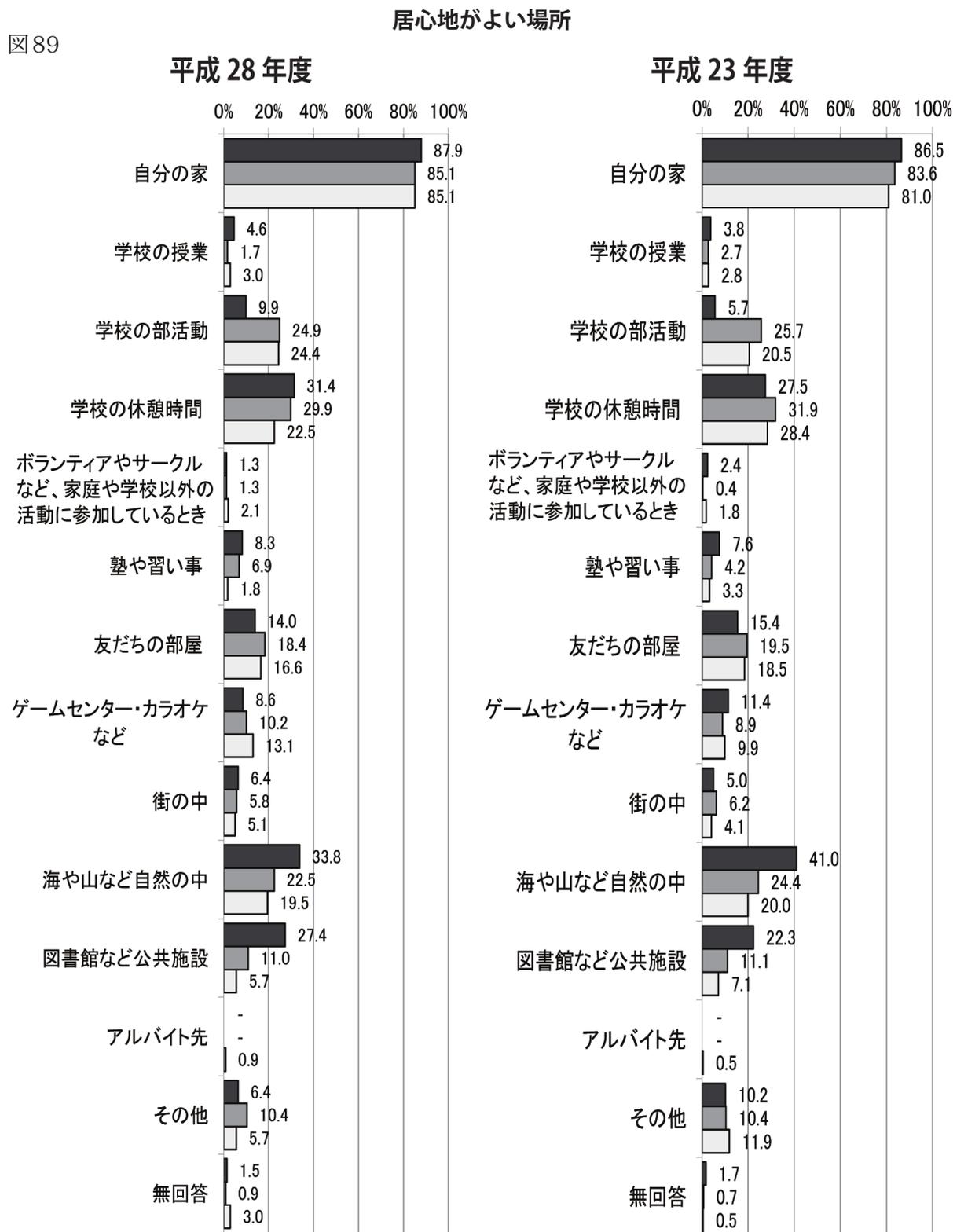
図88



シ 居心地がよい場所

問 あなたが居心地がよいと思う「ところ」・「とき」はどれですか。当てはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

平成23年度と比較してどの年代でも増加している項目は、「自分の家」であった。逆にどの年代でも減少している項目は「海や山など自然の中」であった。



(9) 非 行

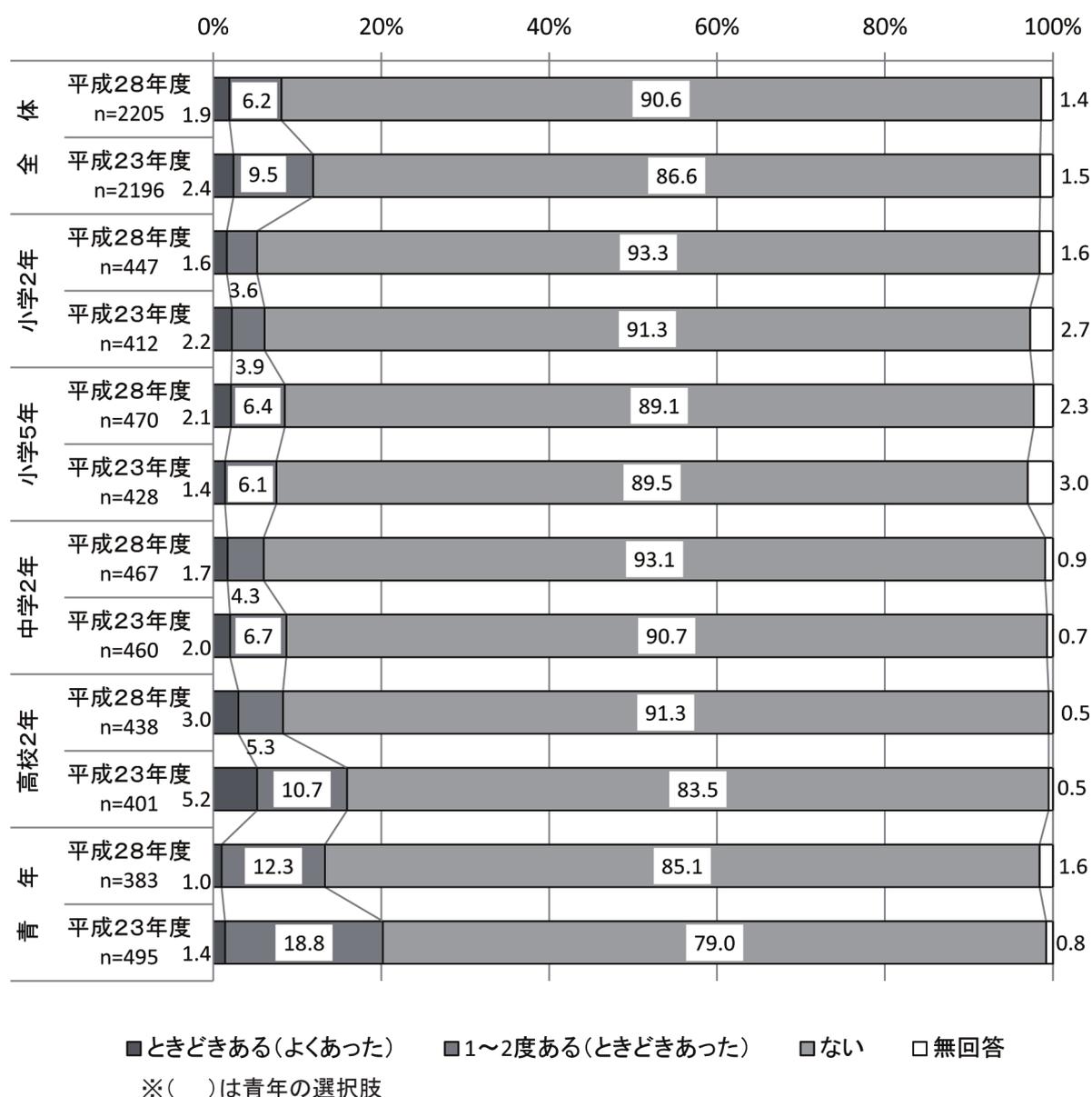
▶▶ ア 非行の経験

問 あなたは、最近1年ぐらいの間に下記のことについて、したことがありますか。それぞれ当てはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。
(青年は「18歳（高校卒業）」までにしたことがあるか)

(ア) 家の金を、だまって持ち出したことがある

全体の9割以上が「ない」と回答している。また、平成23年度の調査と比べると、小学5年以外では「ない」の割合が増加している。

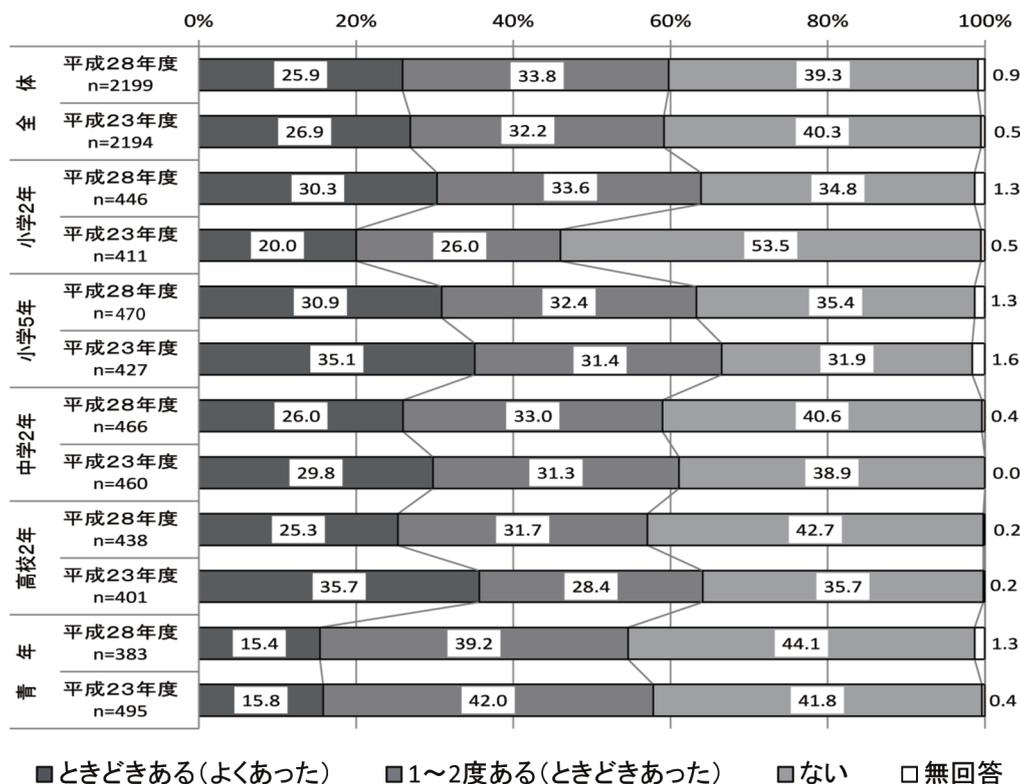
図90



(イ) 家の人にひどく反抗したことがある

「ときどきある（よくあった）」の割合は、小学2年で約10%増加しているが、それ以外の年代では減少している。

図91



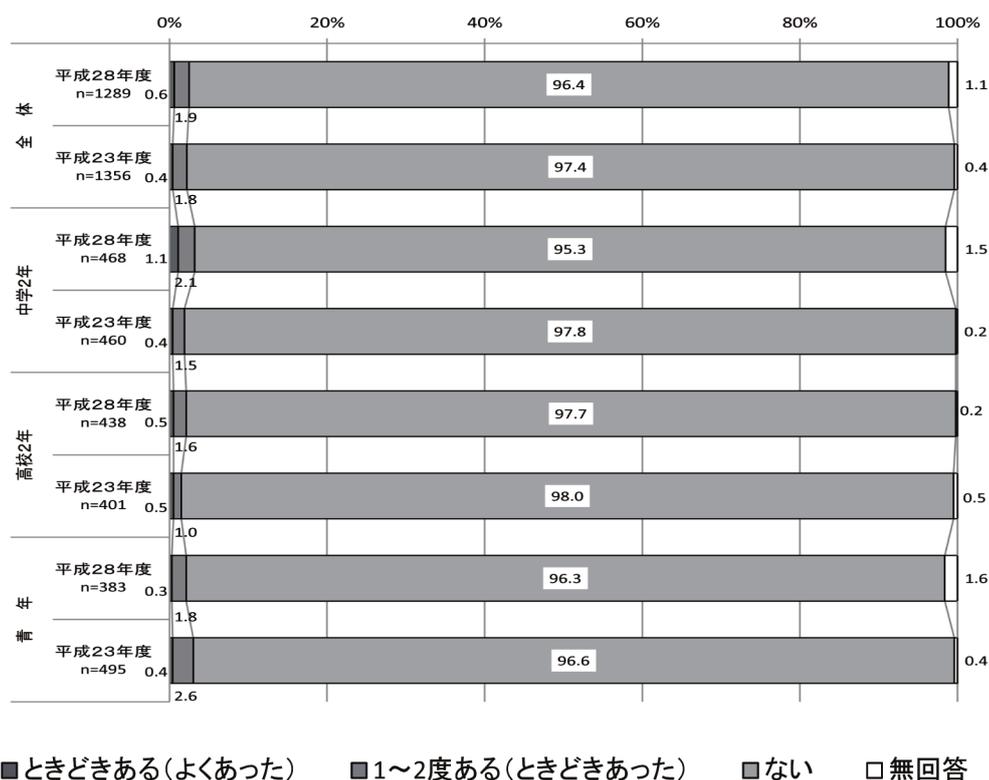
■ときどきある(よくあった) ■1~2度ある(ときどきあった) ■ない □無回答

※()は青年の選択肢

(ウ) 学校の先生に暴力で反抗したことがある

どの年代でも9割以上が「ない」と回答している。

図92



■ときどきある(よくあった) ■1~2度ある(ときどきあった) ■ない □無回答

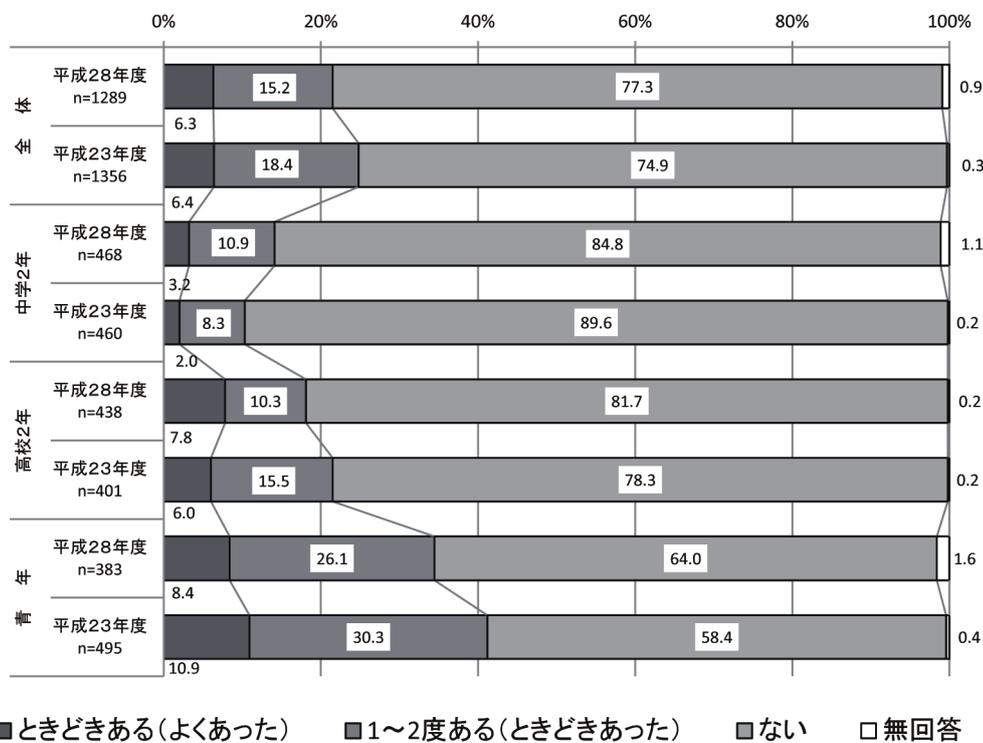
※()は青年の選択肢

(工) 学校の授業をさぼったことがある

年代別に見ると、「ときどきある」と「1～2度ある」を合わせた割合は年代が上がるにしたがい高くなっている。

平成23年度と比較すると、「ときどきある」と「1～2度ある」を合わせた割合は中学2年で増加しており、高校2年と青年では減少している。

図93



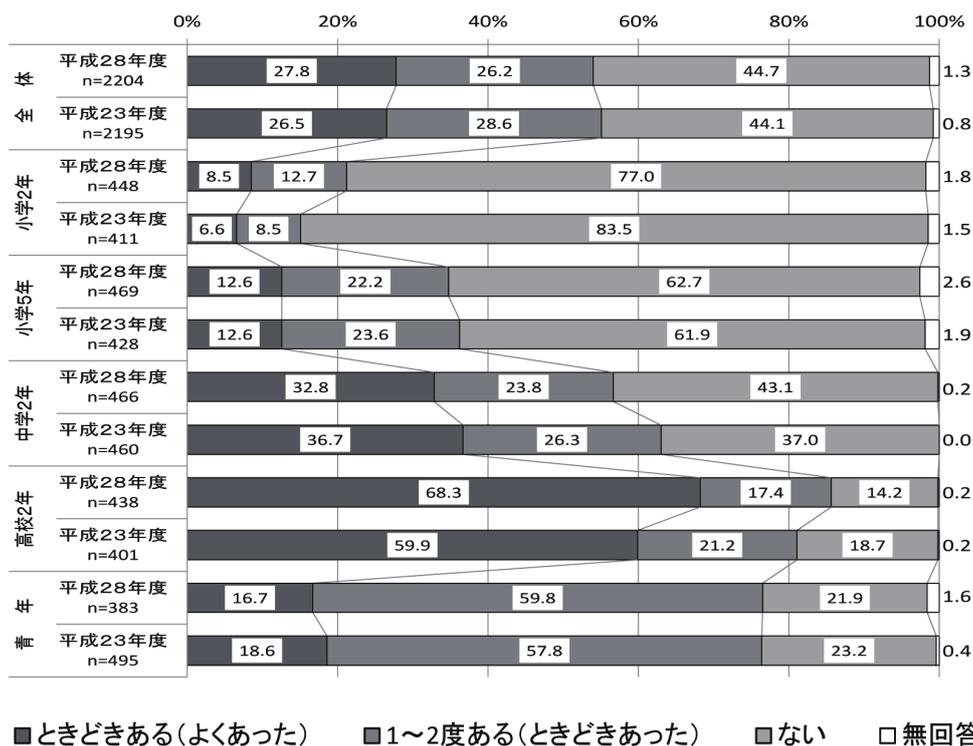
■ときどきある(よくあった) ■1～2度ある(ときどきあった) ■ない □無回答

※()は青年の選択肢

(オ) 友だちとゲームセンターに行ったことがある

「ときどきある」と「1～2度ある」を合わせた割合は、小学2年の約21%、小学5年の約35%、中学2年の約57%、高校2年の約86%で、年代が上がるにつれて上昇している。

図94



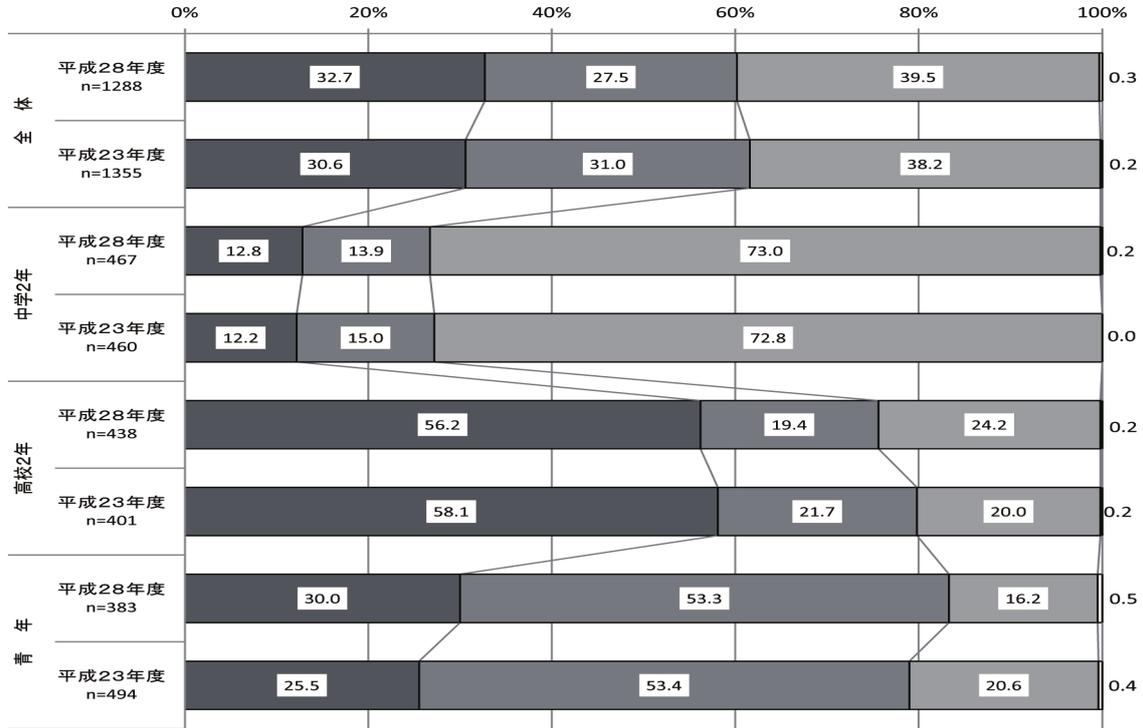
■ときどきある(よくあった) ■1～2度ある(ときどきあった) ■ない □無回答

※()は青年の選択肢

(カ) 友だちとカラオケボックスに行ったことがある

「ときどきある」と回答した割合が最も多いのは高校2年で、6割弱を占めた。

図95

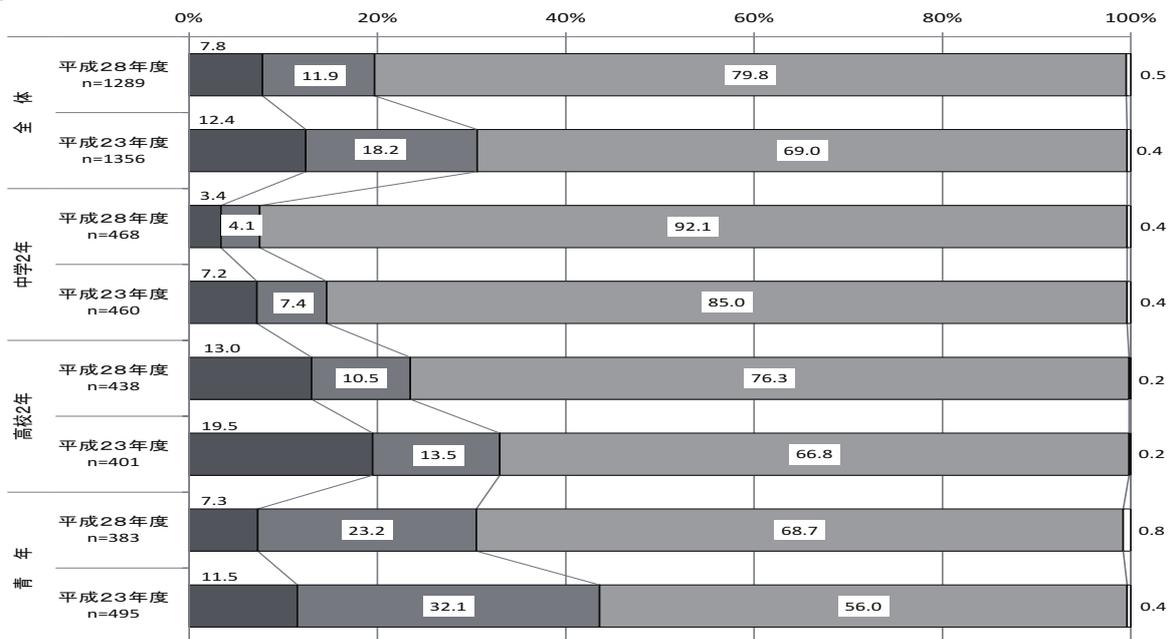


■ときどきある(よくあった) ■1~2度ある(ときどきあった) ■ない □無回答
※()は青年の選択肢

(キ) アダルト(ポルノ)雑誌やアダルトDVDを見たことがある

「ときどきある」「1~2度ある」の割合は、年代が上がるにつれ増加している。平成23年度と比べ、全ての年代で「ない」の割合が増加している。

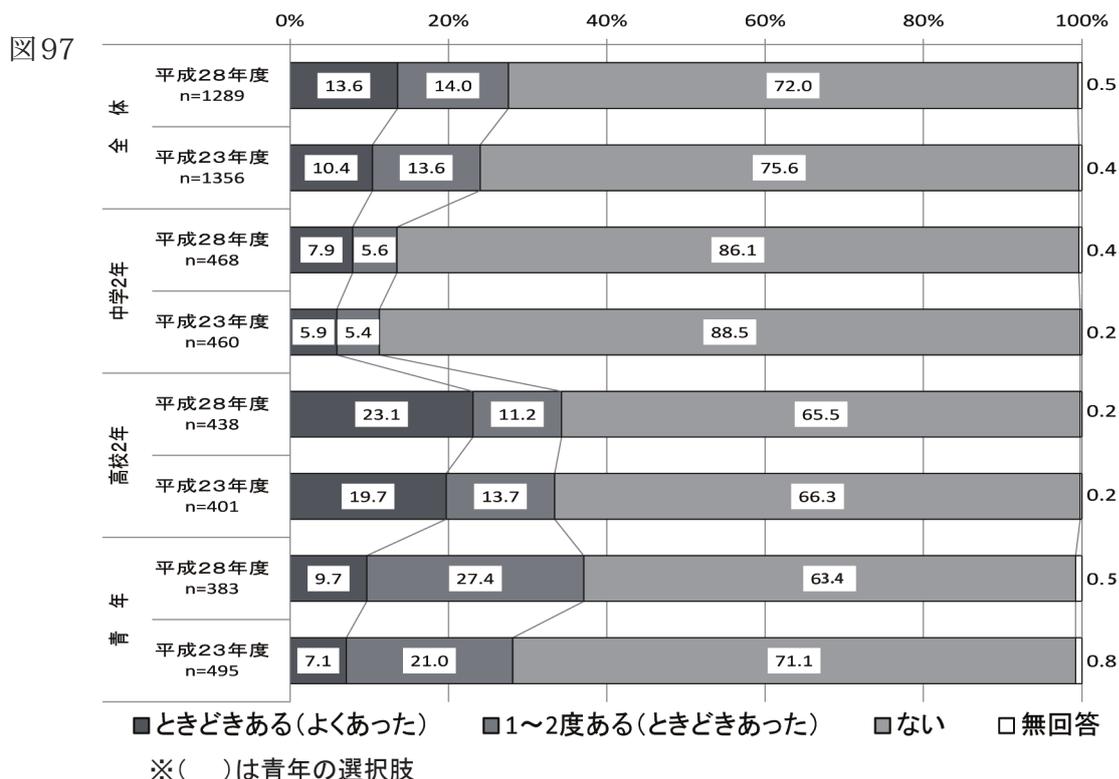
図96



■ときどきある(よくあった) ■1~2度ある(ときどきあった) ■ない □無回答
※()は青年の選択肢

(ク) インターネットのアダルトサイトを見たことがある

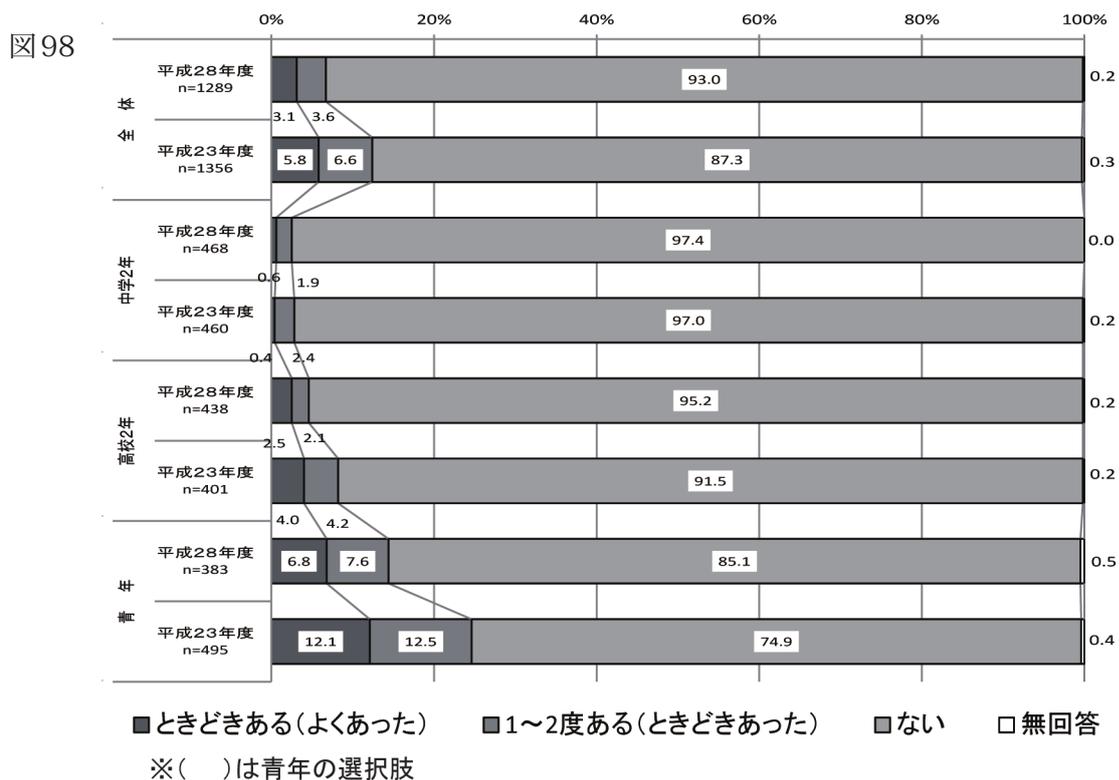
平成 23 年度と比べて、「ときどきある」と「1～2度ある」を合計した割合はいずれの年代でも増加している。



(ケ) タバコを吸ったことがある

年代別に見ると、「ない」と回答した中学2年と高校2年はそれぞれ95%以上である。高校2年は約5%の生徒が「ときどきある」「1～2度ある」と回答している。

平成 23 年度と比較して、いずれの年代でも「ときどきある」「1～2度ある」を合計した割合は減少している。

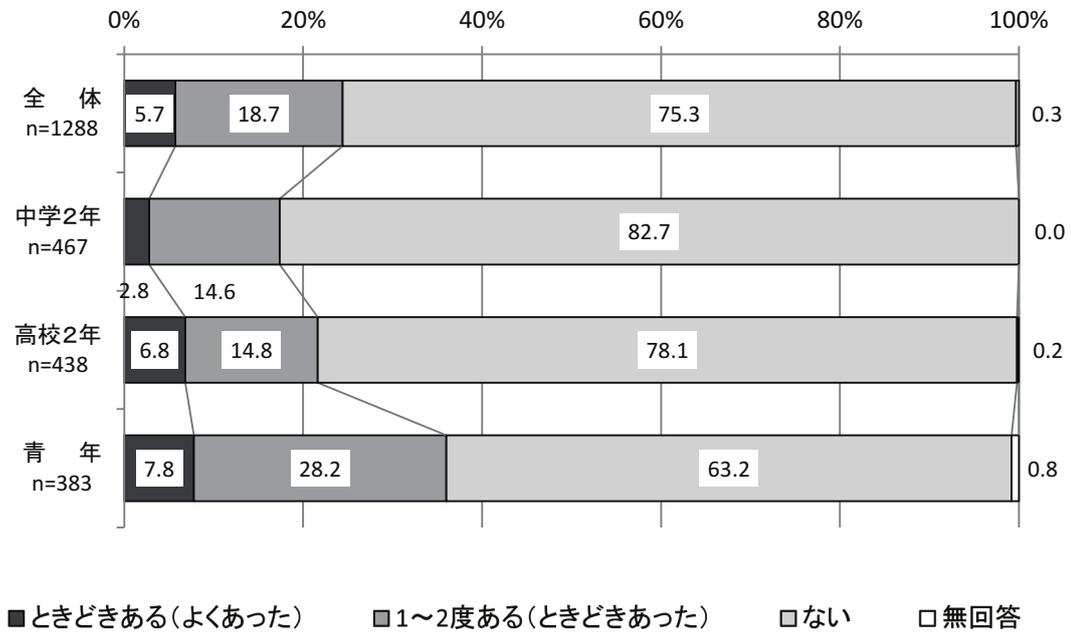


(コ) 酒を飲んだことがある

「ときどきある(よくあった)」と「1～2度ある(ときどきあった)」を合わせた割合は、
 中学2年の約17%、高校2年の約22%、青年の36%であった。

※平成23年度とは設問が異なるため、単純比較はできない

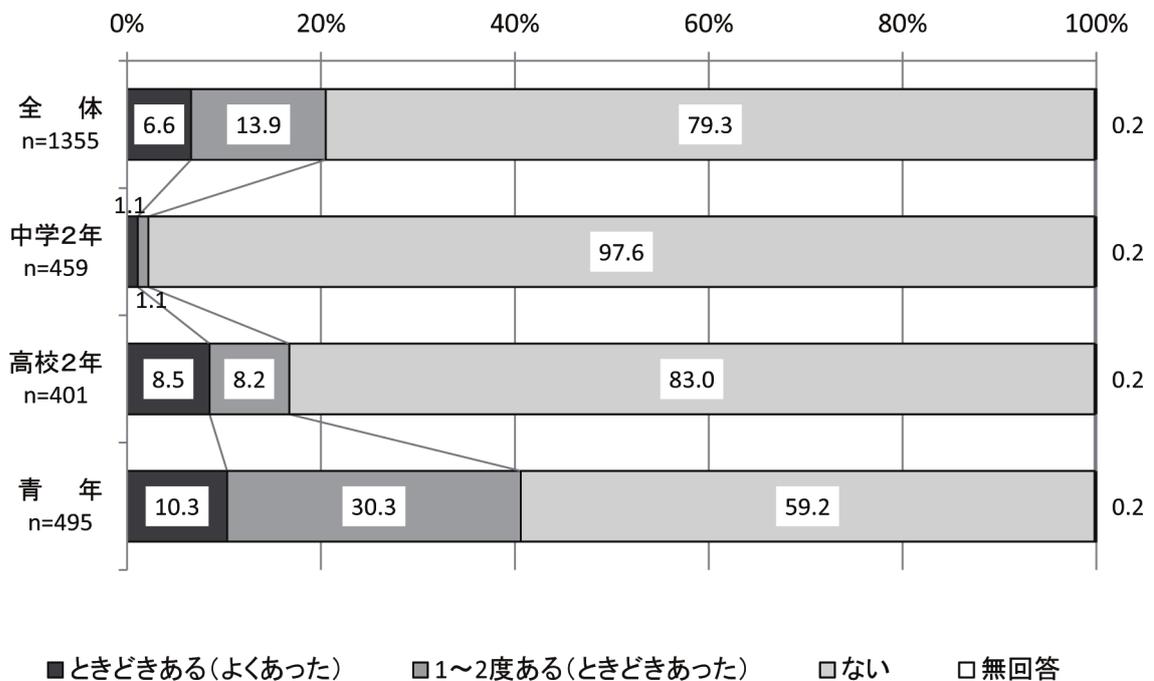
図99



(参考)

図100

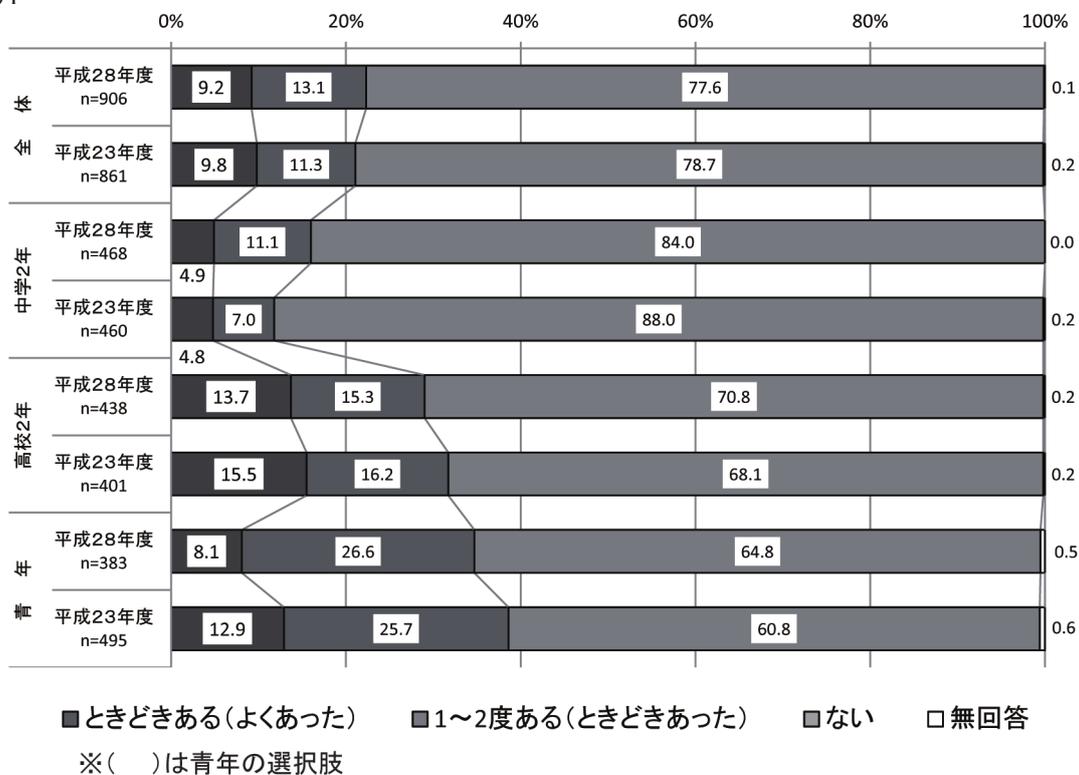
友だちと酒を飲んだことがある (平成23年度)



(サ) 友だちと深夜まで遊んでいたことがある

年代別に見ると、「ときどきある」と一番多く回答しているのは高校2年である。「ときどきある」と「1～2度ある」を合わせて一番多く回答しているのは青年で、次に高校2年、中学2年の順になっている。

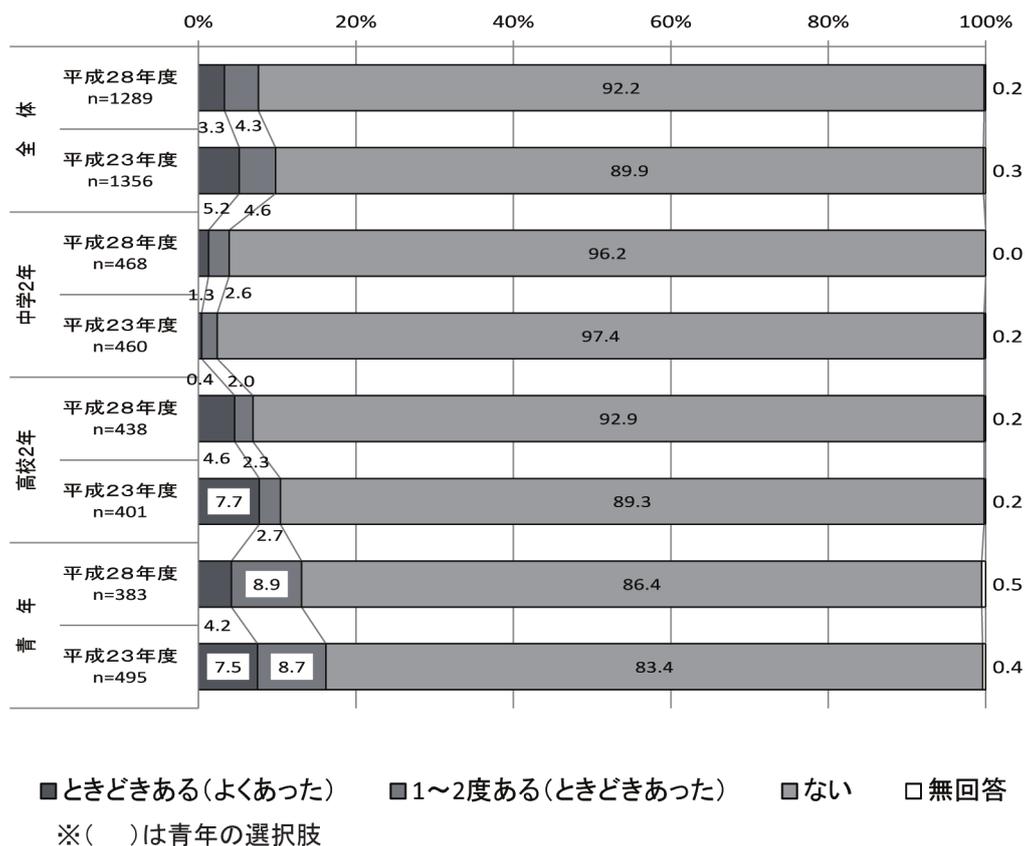
図101



(シ) 家の人にだまって外泊をしたことがある

いずれの年代でも、約9割が「ない」と回答している。

図102

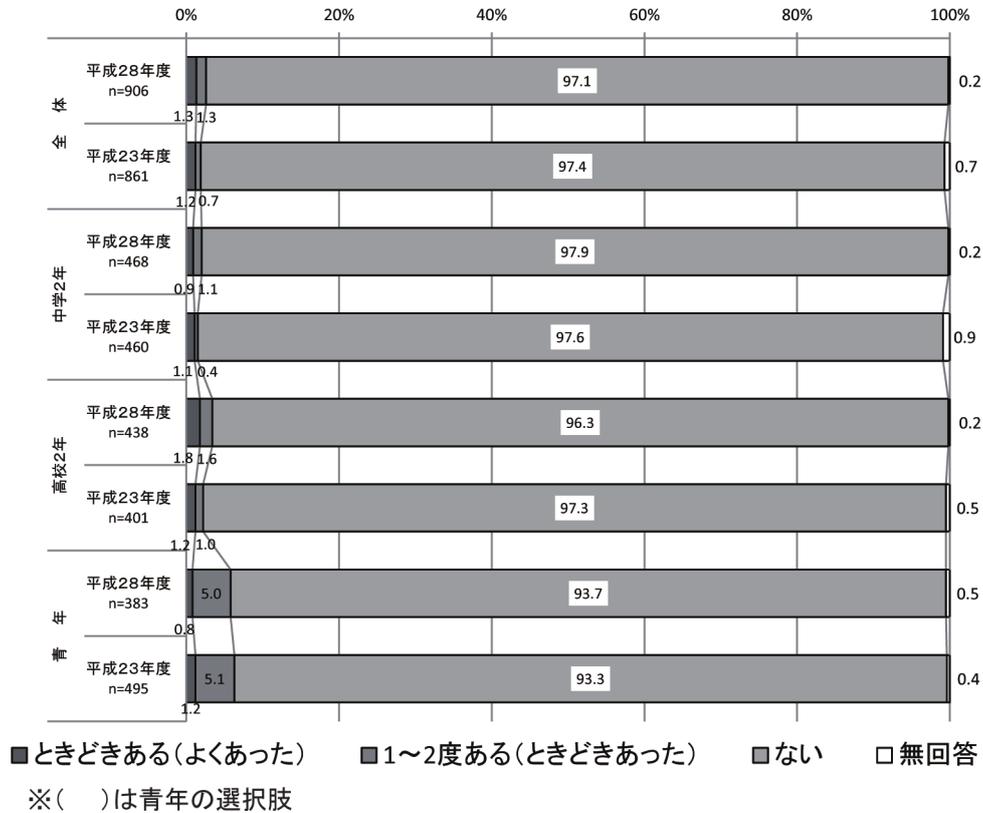


(ス) 出会い系サイトを使ったことがある

*平成23年度は、テレクラ、ツーショット、出会い系サイトを使ったことがある。

どの年代でも9割以上が「ない」と回答している。「ときどきある」と「1～2度ある」を合わせると、青年が一番多い。

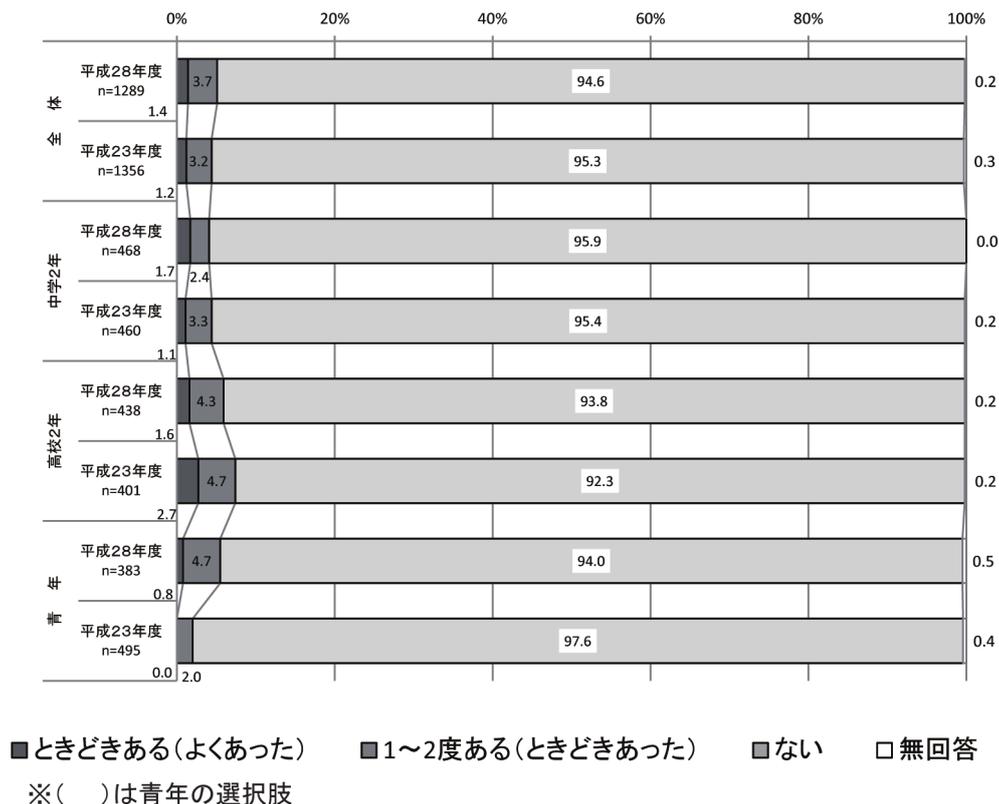
図103



(セ) インターネット上の掲示板などに他人の悪口などの書き込みをしたことがある

どの年代でも9割以上が「ない」と回答している。「ときどきある」と「1～2度ある」を合わせた割合は、高校2年が約6%と最も高い。

図104



▶▶ イ 触法行為の経験

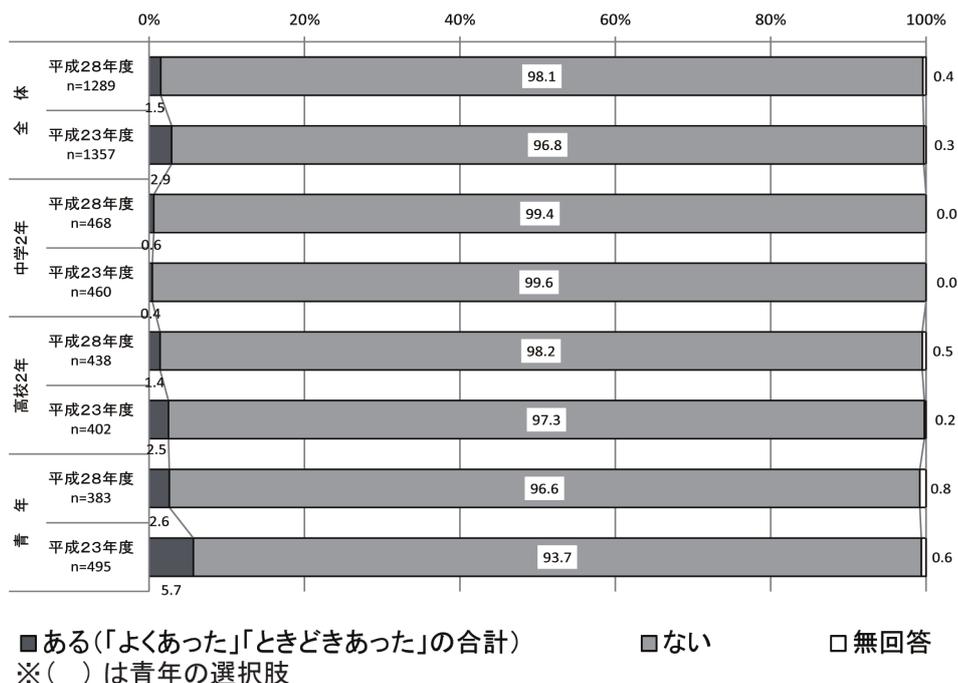
問 あなたは、最近1年ぐらいの間に、下記のことについて、したことがありますか。それぞれ当てはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。
(青年は「18歳(卒業まで)」にしたことがあるか)

(ア) 他人の自転車やオートバイを無断で乗りまわした

どの年代でも「ない」は9割を超えている。年代が上がるにしたがい、「ある」と回答した割合が増加している。

平成23年度と比べた「ある」の割合は、中学2年で僅かに増加したほかは、ほぼ半減している。

図105

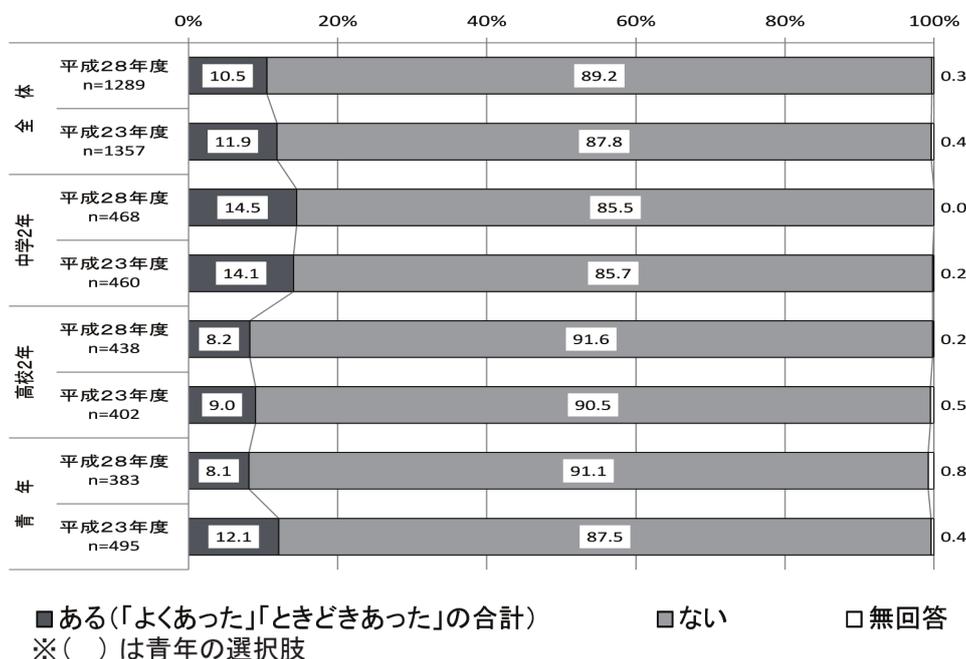


(イ) けんかをして、人をなぐった

全体的に見ると「ない」と回答した人が約9割である。年代別に見ると一番多く「ある」と回答したのは中学2年(約14.5%)であり、高校2年(8.2%)、青年(8.1%)と続いている。

平成23年度と比較して、中学2年以外の年代では「ある」の割合が減少している。

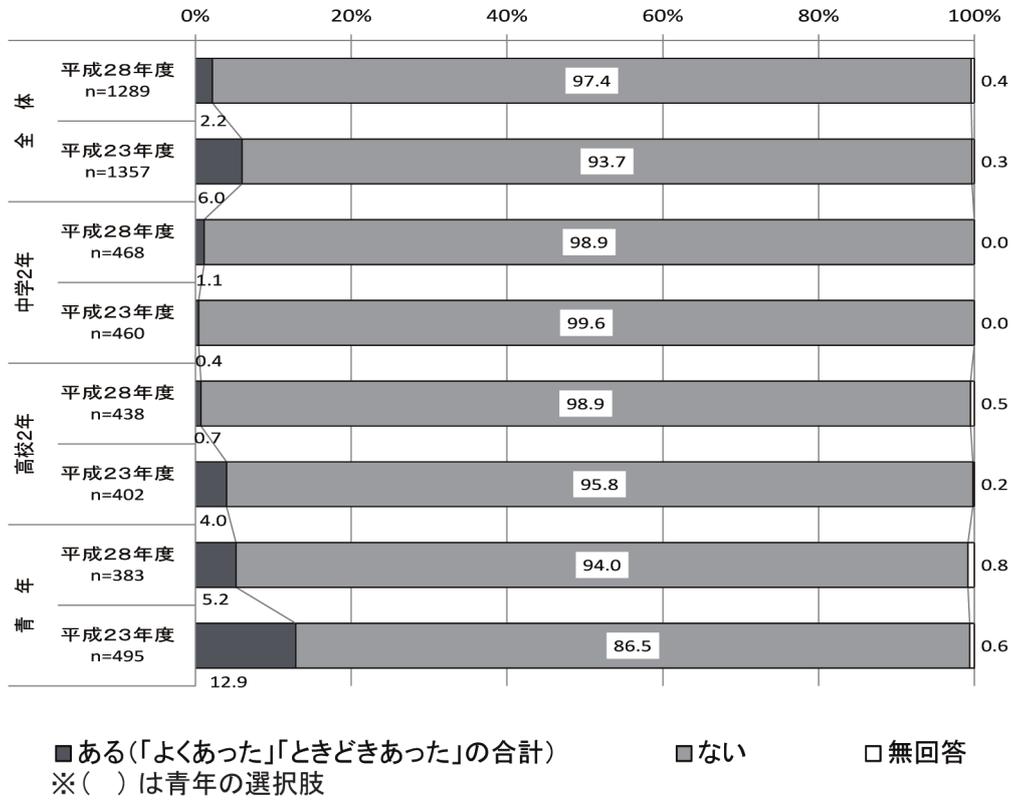
図106



(ウ) 店の品物を金を払わずに持って出た

中学2年と高校2年のほぼ99%が「ない」と回答している。また、平成23年度と比べて、「ある」と回答した高校2年及び青年の割合は大きく減少している。

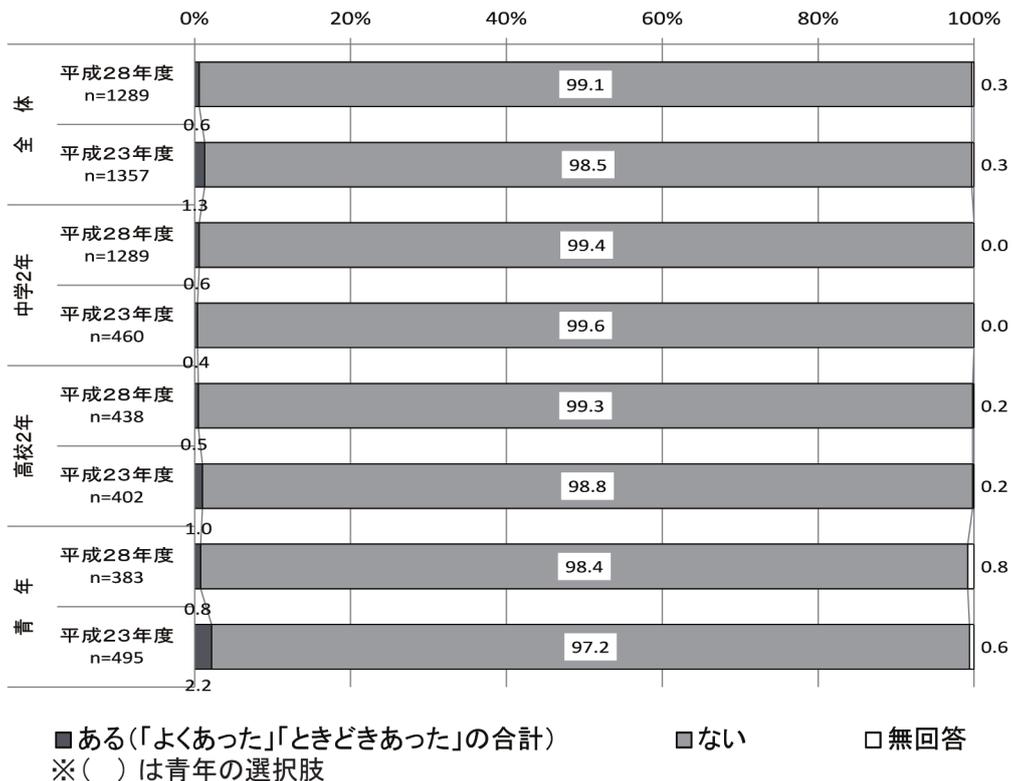
図107



(エ) むりやり人から金や品物を取りあげた

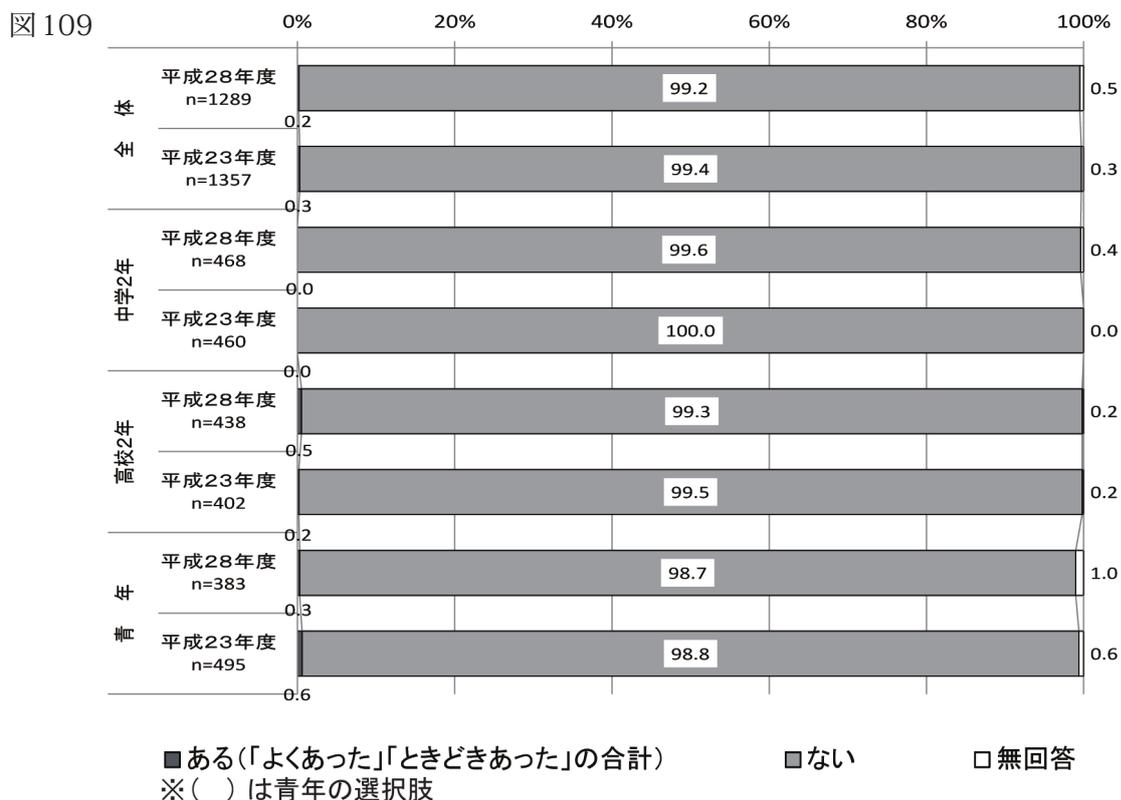
中学2年、高校2年の99%以上、青年の98%以上が「ない」と回答している。

図108



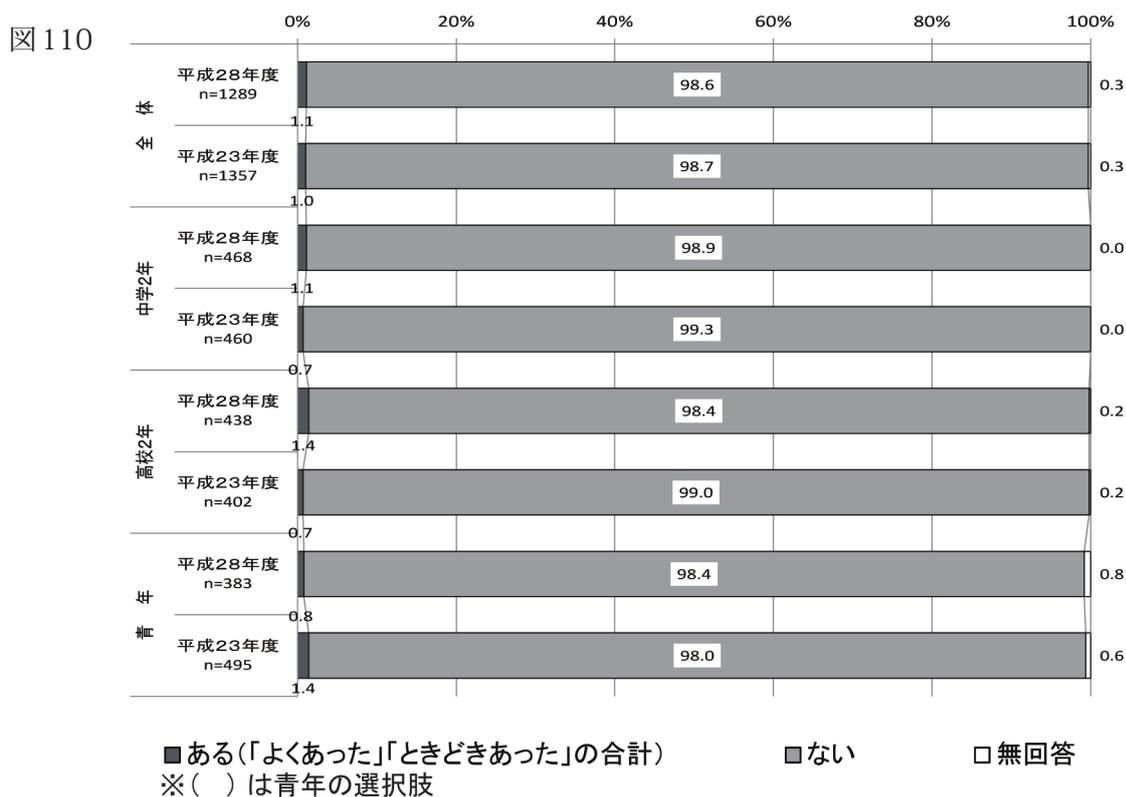
(オ) 大麻や覚醒剤、シンナーなどの薬物を使った

中学2年、高校2年の99%以上、青年の98%以上が「ない」と回答している。



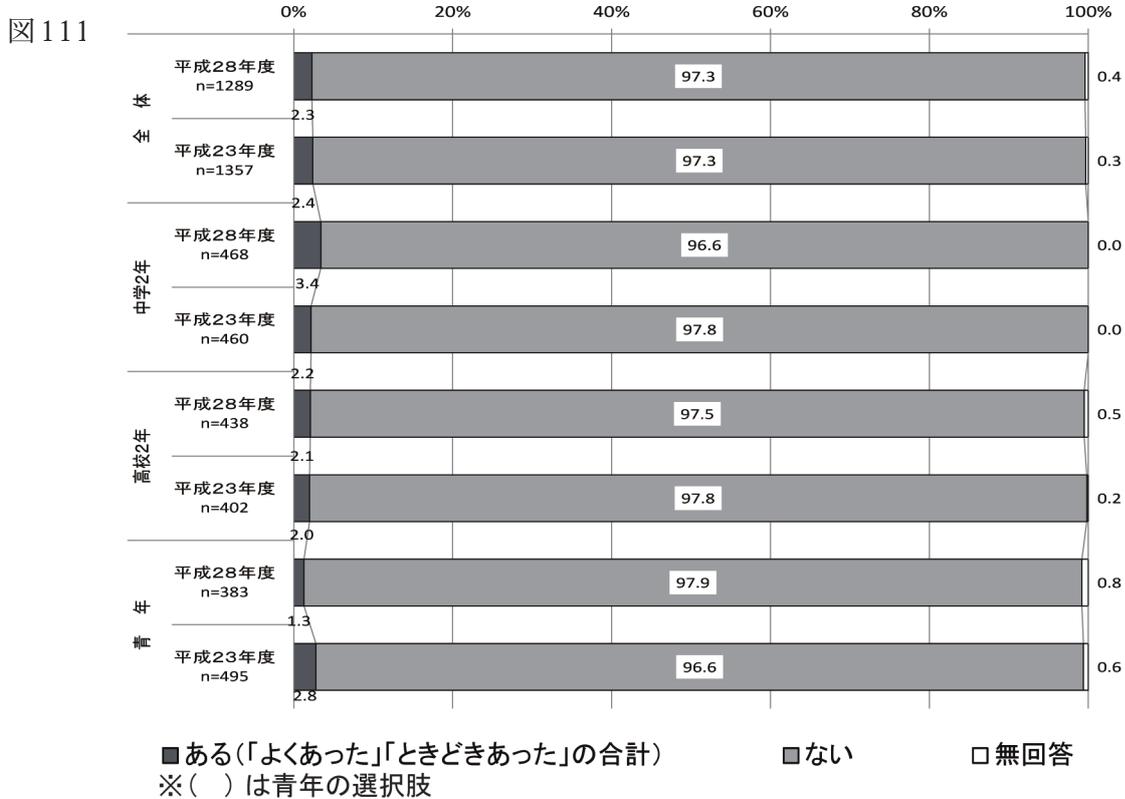
(カ) ファッションや護身のためにナイフを持ち歩いた

どの年代でも98%以上が「ない」と回答している。



(キ) 頭の中が真っ白になって暴力をふるった

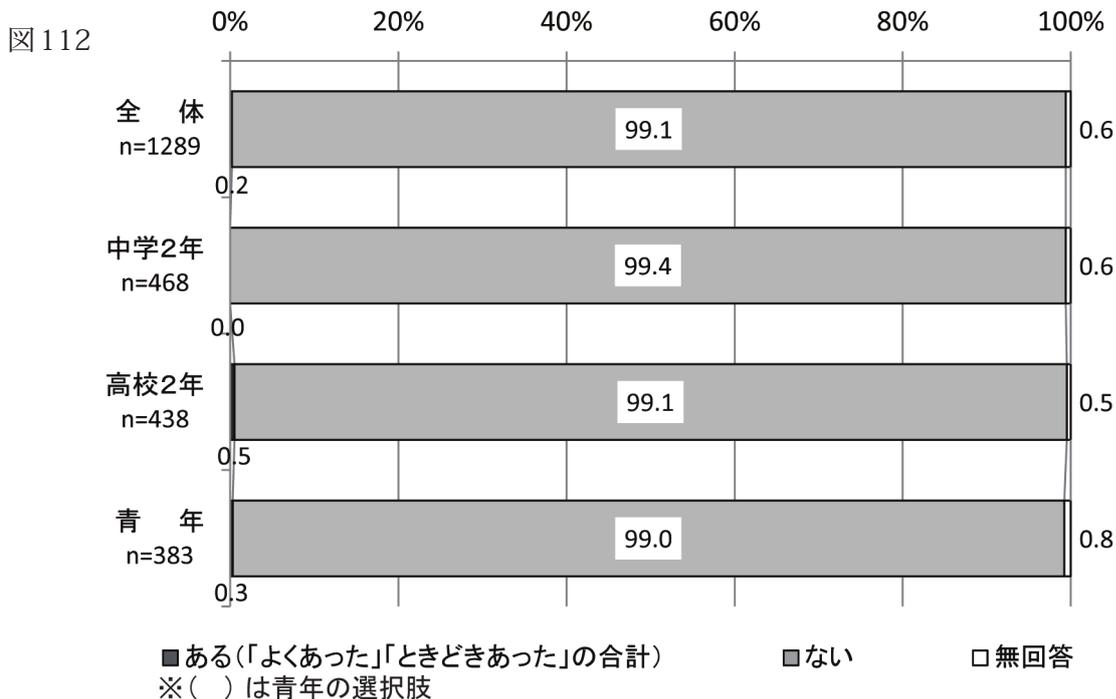
いずれの年代でも96%以上が「ない」と回答している。一番多く「ある」と回答しているのは中学2年(3.4%)であり、次に高校2年(2.1%)、青年(1.3%)の順に続いている。



(ク) 危険ドラッグ(※)を使った

※麻薬や覚醒剤に構造が似た、興奮や幻覚などを引き起こす化学物質。一度の使用で死亡したり、深刻な後遺症を引き起こす可能性がある。

ほとんどの回答が「ない」であった。危険ドラッグを使ったことが「ある」と答えたのは、高校2年の0.5%、青年の0.3%だった。



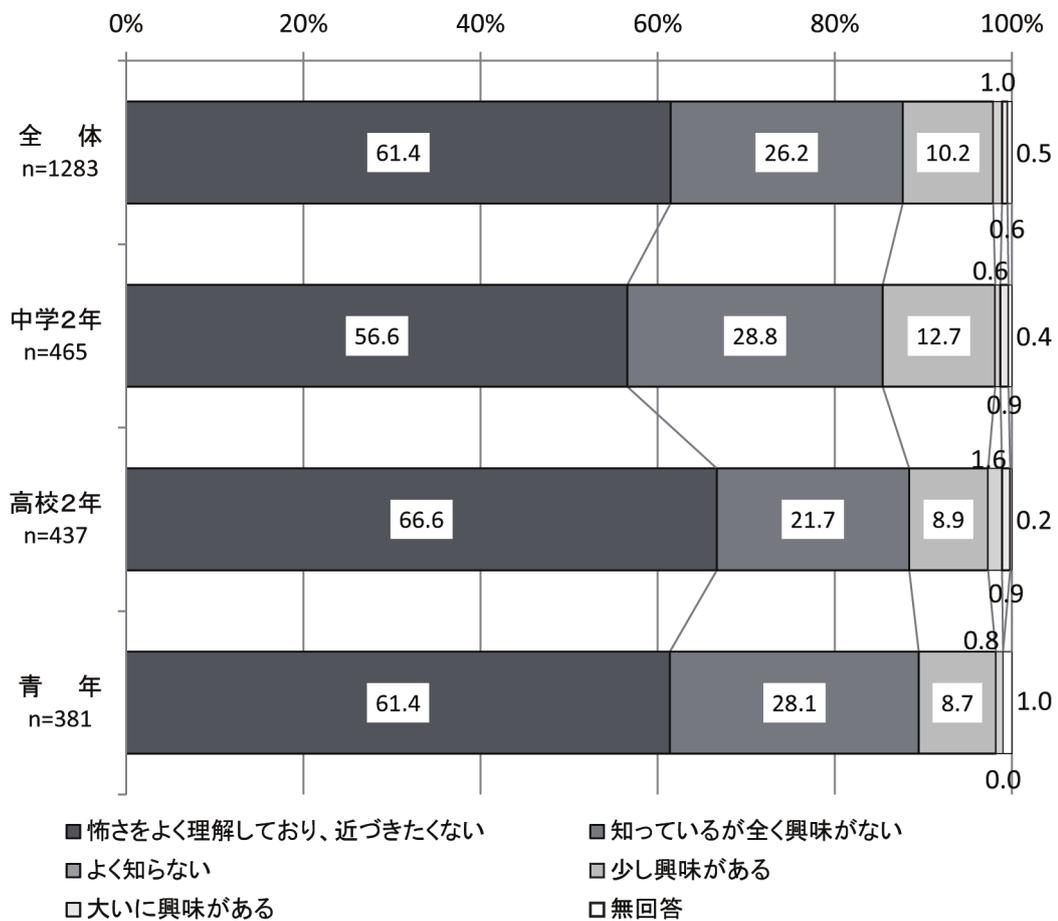
問 あなたは、危険ドラッグについてどのように考えますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「怖さをよく理解しており、近づきたくない」「知っているが全く興味がない」の合計は、中学2年の85.4%、高校2年の88.3%、青年の89.5%であった。また、「よく知らない」の割合は各年代の1割程度であった。

「少し興味がある」「大いに興味がある」と回答したのは、各年代の1～3%程度であった。

危険ドラッグへの意識

図113



ウ 性非行を行うことへの意識

問 異性との交際について、今のあなた自身の年齢（青年は高校生の年齢）で、してもよいと思うものをすべて選んで○をつけてください。

今の自身の年齢でもよいことを尋ねたところ、「キスをする」を選んだ割合は中学2年では25%、高校2年では約73%だった。また、「性関係を持つ」を選んだのは高校2年の約29%であった。

性非行を行うことへの意識

図114

